瀬戸大橋建設に伴う

埋蔵文化財調査概報(I)

与島西方遺跡

1978・8

香川県教育委員会

瀬戸大橋建設に伴う

埋蔵文化財調査概報(I)

与島西方遺跡

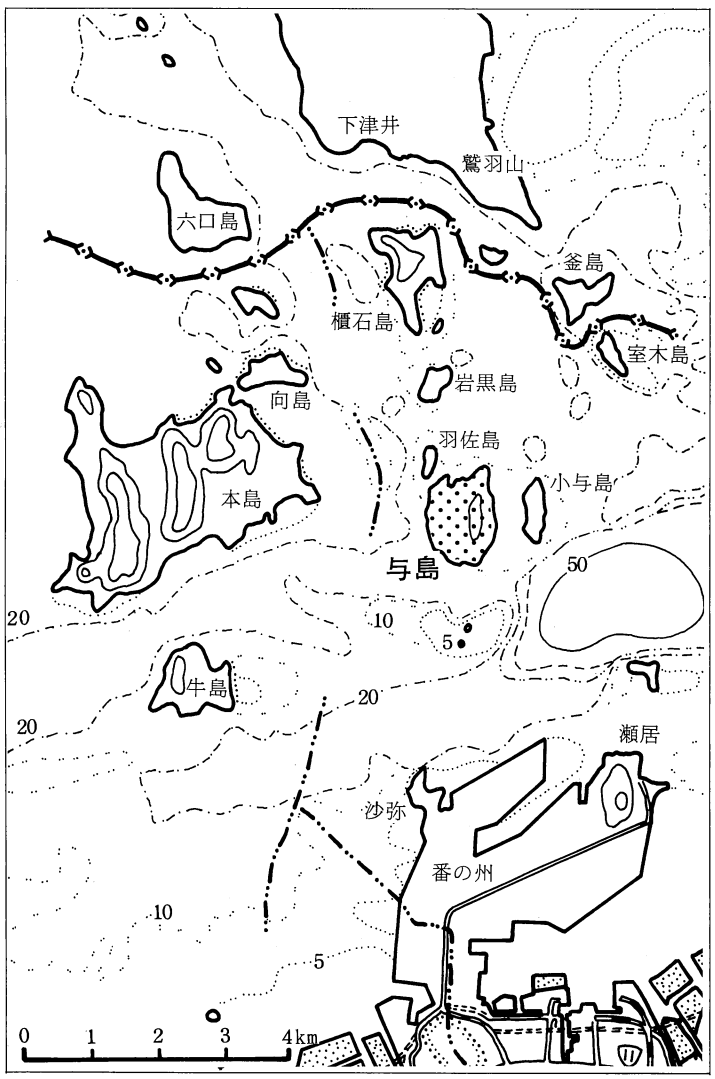
1978・8

香川県教育委員会

西方遺跡調査風景（四国新聞社提供）

例　　言

1. 本書は，瀬戸大橋架橋工事に伴う坂出市与島西方遺跡の発掘調査概報である．ただし，現在調査を継続中であるため，これまでの調査の概況を述べて，いわば中間的な報告としたい．
2. 本調査は，本州四国連絡橋公団から委託を受けて，香川県教育委員会が実施している．
3. 発掘調査は，文化行政課調査係長松本豊胤の指導のもとで，同課職員秋山忠，牟礼良典，斎藤賢一，沢井静芳，唐木裕志，六車　功，寒川知治，藤好史郎，真鍋昌宏，大砂古直生が担当し，白本　清，西村尋文が補助した．
4. 本書は主として，秋山　忠，牟礼良典，寒川知治が作成し，六車　功，真鍋昌宏，山本哲也・横田佳代子・玉城一枝（文化行政課職員）が補助した．
5. 調査の実施にあたっては，与島瀬戸大橋対策協議会，同自治会はじめ地元の方々から多大の協力を受けている．厚く感謝の意を表します．



与島の位置図

目　　次

はじめに …… 1
Ⅰ　遺跡の位置 …… 1
Ⅱ　調査の経過 …… 4
Ⅲ　調査区の設定 …… 5
Ⅳ　B地区の調査 …… 9
(1)　土層序について …… 9
(2)　遺物出土状況 …… 9
Ⅴ　A地区の調査 …… 15
(1)　土層序について …… 15
(2)　遺物出土状況 …… 22
(3)　礫群について …… 26
Ⅵ　出土遺物 …… 28
おわりに …… 36
付　表 …… 38
図　版 …… 46

西方遺跡遠景

はじめに

着工間近にせまった本州・四国連絡橋児島～坂出ルートのうち，坂出市与島に於ける埋蔵文化財について昭和51～52年度にわたって予備調査を実施した．それによって，遺跡の概要や範囲を把握することができ，その成果は「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財予備調査報告」(I)・(II)によって一般に周知した．

予備調査に続く本格的な発掘調査は，昭和52年11月1日付の本州四国連絡橋公団との間で締結した「海峡部埋蔵文化財発掘調査委託契約」によって，15,000 m²にも及ぶ与島西方遺跡の範囲内でもとりわけ重要視される石槌神社周辺部で実施している．

なお，今年度当初より調査に係る契約や物品関係及び整理作業の用に供するため「香川県教育委員会埋蔵文化財坂出連絡事務所」を設置した．

I　遺跡の位置

坂出市与島は，備讃瀬戸の児島～坂出間に飛び石状に並ぶ島嶼の中程にあって，所謂塩飽七島の一つに数えられる．

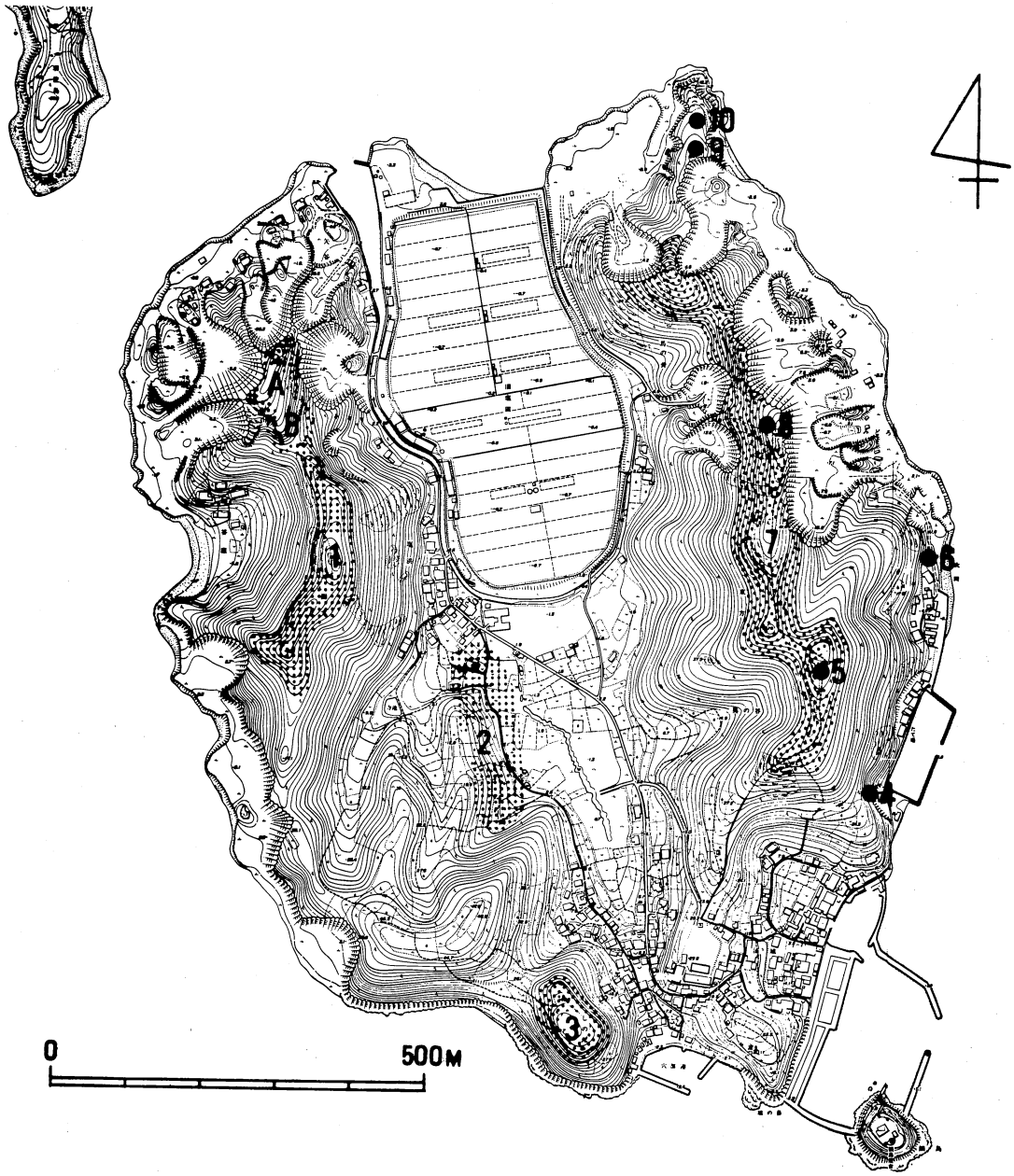
島の周囲は約4.2㎞，花崗岩を基盤とした小島で，北西びらきのU字形状を呈する東・西二筋の屋根丘陵とそれに挟まれた僅かな平地部からなる．通常，西側尾根及びその山麓地区を指して西方(にしかた)，東側のそれを東方(ひがしかた)と呼んで区分する．西方の尾根は，北端部に所在する石槌神社近辺で，標高72mを測り，これより南東に向けて次第に低くなる尾根丘陵が1㎞ほど続く．一方，東方の尾根は中央よりやや北寄りの頂部で本島最高の標高78mを示し，略南北方向に尾根筋が延びている．この二筋の尾根丘陵に挟まれた平地部の南側は，標高2～3mの砂地で，畑地として利用されており，北側部分の塩田跡地では，架橋工事の一環として埋め立て作業が進んでいる．

この島では，良質で豊富な花崗岩の採掘が盛んで，すぐ東側に対する小与島とともに石材の島として知られている．両側尾根の北半部，特に海岸沿いには各所で石丁場がひらかれ，そのため切りとられた岩肌も露わで，山容が大きく変わっている．

さて，島内には以前からいくつかの埋蔵文化財包蔵地の存在することが知られており，第1図のような遺跡の分布が認められる．

旧石器時代に関しては，すでに古く，昭和8年頃に表採されたものが与島小学校に保管されているし，戦後さらに島内各所で数多くの旧石器が採集されている．

その後，昭和35年8月には香川県教育委員会が主体となって東方及び西方丘陵で発掘調査を実施した．調査は東方でミドロ地区から山の神社祠(しやし)にかけて，西方で石槌神社の南側に調査区を設けたもので都合36m²の小範囲な発掘であったが，多数の資料を得ている．踏査の成果もあわせて旧石器の散布地が東方尾根丘陵のほぼ全域に及ぶこと，西方では石槌神社が所在する尾根上平坦部に濃厚であることを報告している．さらに昭和48年，香川県教育委員会は東方の北端に近い標高52.7mの丘陵頂部から南東に下る尾根筋において5調査区，約25m²の発掘を行い，石器3点，剝片23点と土器片若干を採取した．注目されるのは，全長14.5㎝中央よりやや下位で最大幅5㎝，厚さ1.4㎝を測る尖頭器と全長5.8㎝，最大幅2.5㎝，厚さ0.8㎝極めて精巧に調整された有舌尖頭器である．



第１図　与島の遺跡

1. 西方遺跡（昭和52年度予備調査，同年よりＡ・Ｂ地区本調査実施）
2. 縄文・中世包蔵地（昭和51年度予備調査）
3. シノダ遺跡（旧石器散布地）
4. タテバ遺跡（奈良時代以降の土器片多数出土）
5. 山の神遺跡（山頂近くの祠周辺より旧石器多数出土）
6. 大州浜遺跡（師楽式土器片多数と貝・魚骨・獣骨等出土）
7. 東方遺跡（旧石器散布地）
8. ミドロ遺跡（ミドロ採石場の上の丘陵で旧石器多数出土）
9. 長崎鼻石組遺構（方形石組み，性格不明）
10. 長崎鼻古墳（組合せ式石棺２基，現在１基露出，１基崩壊）

なお，昭和36年８月にも香川県教育委員会は東方大州の旧与島診療所敷地内で発掘調査を行い多数の師楽式土器片と貝殻，魚骨，獣骨等を検出している．この頃から，島内では縄文式，弥生式土器片などの採集が行われたり，タテバ港に近接した地点で奈良時代以降の窯跡と推定されるものが見つかっている．東方北端の長崎鼻の低い尾根丘陵上では，古墳時代の組合せ式箱式石棺や性格不明の石組遺構も確認されている．このような調査の経過によって，与島には旧石器時代から歴史時代に及ぶ遺跡の存在が知られるようになった．そして，本四連絡橋児島～坂出ルートの架橋計画が具体化するに伴い，香川県教育委員会は，昭和51～52年にわたって与島内の同計画路線沿線地区における事前の埋蔵文化財予備調査を実施した．

昭和51年度の調査は与島中学校の南に位置する低丘陵とその山裾一帯を対象範囲としたものである．中学校南側の平地では，縄文時代後期の磨消縄文をもった土器片数点が認められ丘陵東裾の調査区で良好な中世の包含層が検出されて土師質土器，瓦質土器，輸入磁器，土錘などが出土している．

昭和52年度においては，石槌神社が所在する標高70ｍの尾根上平坦部から南西に向けて下る尾根筋約400ｍをトレンチ調査した．調査結果によれば，旧石器時代に係る遺物の最も濃密な分布を呈したのは，やはり標高70ｍの平坦部であり，それより南の尾根筋では小高い丘陵部でやや分布にまとまりが見られる程度であった．遺物は，ナイフ形石器，船底形石器，スクレイパー，翼状剝片，石核，石鏃などのほか多数のサヌカイト剝片で，それらは概ね第２層～３層を中心に出土している．しかし，全調査区で遺構の存在は認められていない．

今回の調査は，こうした予備調査の成果やこれまでの遺物採集をふまえて，標高70ｍの平坦部及び南東側斜面部を対象区域とするもので西方遺跡の主要部における本格的な発掘調査である．

Ⅱ　調査の経過

発掘調査の委託契約を締結したのち，直ちに調査計画の具体化や現地における事前準備を行い，昭和52年12月10日より現場作業を開始した．

調査区域は喬木，下草等が繁茂する松林であるため，その自然景観を保護する立場から伐採は必要最少限度に止どめた．また，調査の方法や工程上からある程度の調査区画群ごとに発掘調査を進め，完掘後の埋め戻しは他の調査区画群の排土をあてることにした．このため，Ｂ地区から着手することになり，伐開に続いて４ｍ方格の27調査区画を設け，53年１月より発掘作業を始めた．

Ｂ地区は，地形図でも明らかなように，東方向への傾斜と南方向への傾斜を合わせもつ複合斜面である．このため，調査区画の平面写真の撮影や層位別発掘が困難で，調査が終了したのは３月中旬すぎである．Ａ地区の調査はＢ地区と併行して２月中旬から実施した．まず，地区南側部分の平坦部より斜面部にかけて27区画を設定し，発掘にとりかかった．予備調査によれば，平坦部に於いて１㎡あたり50点以上の遺物出土をみており，掘り下げが容易でないと予想されていた．そのうえ，４月下旬には遺構の存在が考えられる平坦部で，花崗岩の礫群の一部が検出されたため，発掘作業はより慎重にならざるを得なかった．この区域の調査は６月末にほぼ終了し，引き続いて埋め戻し作業にはいった．５月中旬には，Ａ地区の斜面部下方に10調査区画を設置し，発掘を拡張した．遺物の出土状況，出土数，土層序等については先の区域と似通った様相を示していた．この区域は７月中旬をもって終了し，現在の調査による排土で埋め戻しを進めている．なお，６月中旬には，梅雨，台風等の雨による土砂崩れ防止のため，調査区画下方に簡易な防護柵を設置した．

現在発掘調査中の24調査区画は標高70ｍの平坦部を縦走するように並び，７月中旬から発掘を開始した．予想以上に多くの遺物が出土するため，一層ごとの掘り下げが困難で，一度に数cmぐらいしか削平できない状況にある．８月現在，石槌神社に近い８調査区画は地山層まで掘り下げているが，他の16調査区画は約30～40cm前後の深さに止どまっている．Ａ地区には，まだ80調査区画を残しており，今後各種の作業工程をより改善し，早急に調査を終了させるよう，鋭意努力している．

第２図　調査地区の伐採

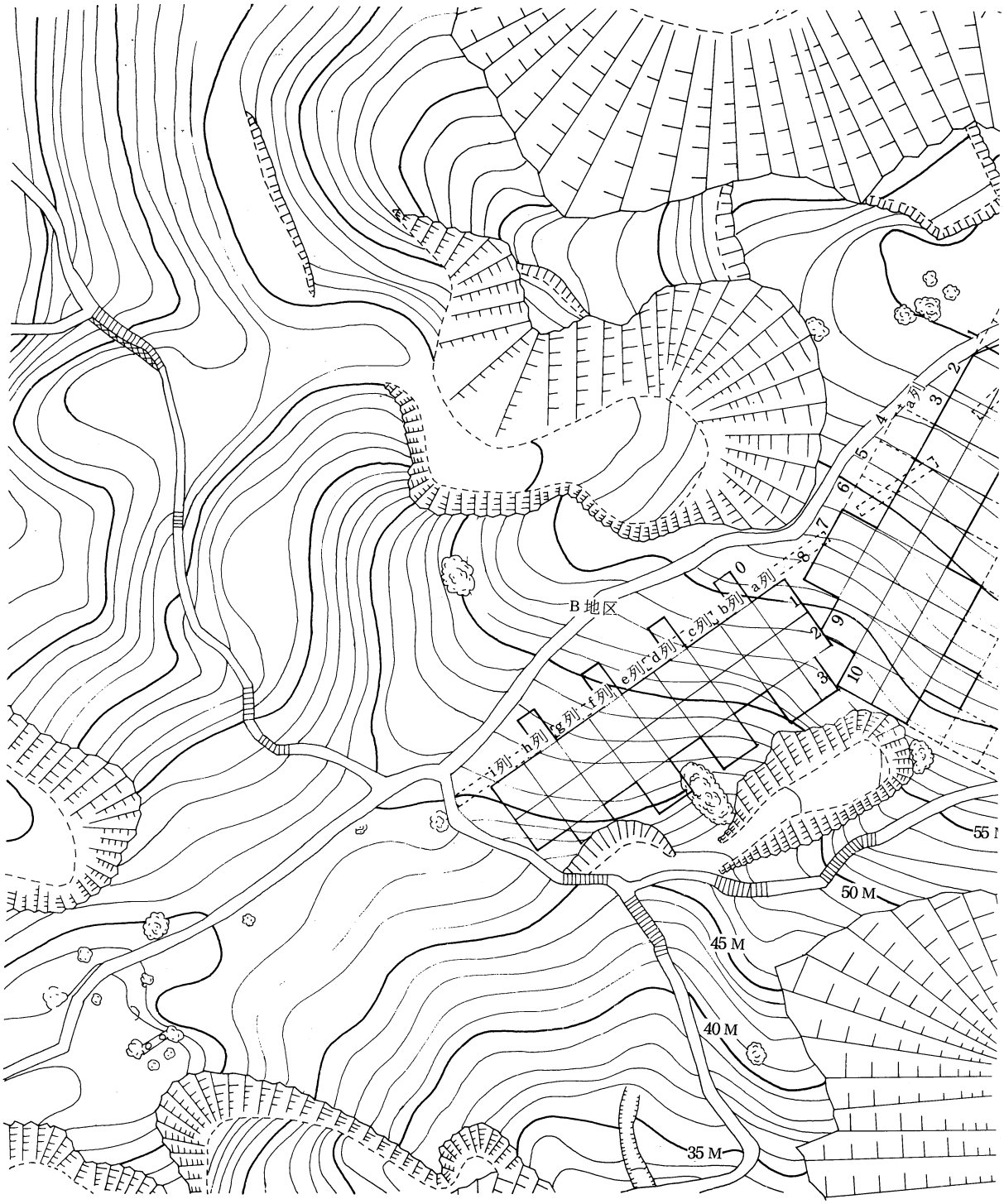
Ⅲ　調査区の設定

今回の調査で対象とする地域（第４図）は，直線距離にして約400 m，広さ15,000 m²に及ぶ西方遺跡の北端に位置し，標高50～70mを測る．最大値をとるなら南北100 m，東西40mの範囲である．

調査区域周辺は南側を除いて，石材業者による花崗岩採掘で切りたった崖面が迫るほど削取されており，現在でも北西側の石丁場は採掘が進行している．そのため，残存する自然地形は，今回の調査区域内とこれに続く南方に延びる尾根筋にしか見ることができない．調査区域の地形を詳細に見るならば，西方丘陵の鞍部（標高50m）より北側にのびる斜面とそれに続く標高70mの平坦部にわかれる．平坦部の北部には石槌神社があり，その横には巨岩がいくつも露頭している．平坦部の一部は採石によって切り取られているため，平均的な幅は約15mほどである．平坦部に近い斜面部の傾斜角は約10～15度前後であり，標高60m近辺では約25度ぐらいを示す．

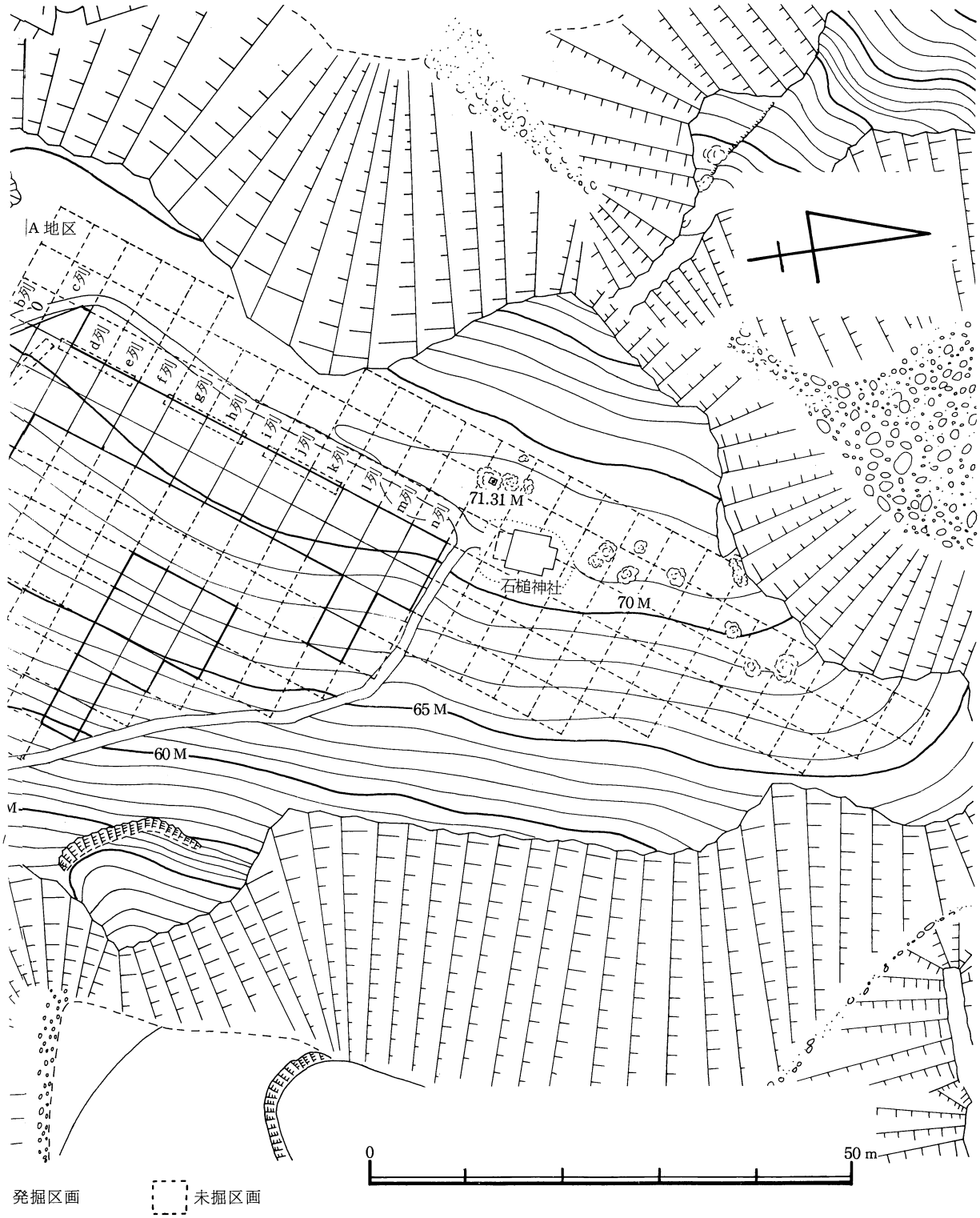
発掘調査は４m方格の調査区画を調査区全域に広げ，全面発掘することを原則とした．また，調査区画設定の基軸線は，地形や予備調査での基軸線との関係から考え，尾根筋方向に平行して定めた．その結果，調査区域を石槌神社の所在する標高70mの平坦部及びそれより南東方向に下る単純傾斜をなす斜面部と，南方向と東方向に傾き複合斜面を形づくる標高50～60mの区域に２区分し，調査の都合上，前者をＡ地区，後者をＢ地区と命名した．Ａ地区南東部下半の斜面は，平坦部の尾根筋とその南端から南東に下降する尾根筋との谷筋にあたり，かなり内曲した地形を示す．Ａ地区の基軸線は，真北より約36度東にふれ，南から北にかけて４mごとにａからｚまで，西から東にかけて０から10までの杭打ちを行い，199の調査区画を数える．ただ，実質的に発掘可能な区画数は

第３図　Ｂ地区調査前全景（南から）



第 4 図　西方遺跡発掘調査区

予備調査トレンチ　本調査


A 地区
b列
c列
d列
e列
f列
g列
h列
i列
j列
k列
l列
m列
n列
71.31 M
石槌神社
70 M
65 M
60 M
0
50 m
発掘区画
未掘区画

140くらいである．現在，37区画で調査が終了し，24区画で継続中である．Ｂ地区の基軸線は真北より約27度西にふれ，基軸線方向で上方から下方にａからｉまで，尾根筋から下方に向け０から３までの杭打ちをし，27調査区を数える。

発掘調査の手順は，調査区画群ごとに発掘前，後の全景写真を撮り，各調査区画ごとには発掘→遺物検出→写真撮影（区画内の遺物分布を示す全景写真と出土状況写真）→遺物の分布実測→遺物の取り上げの各作業を地山層直上まで層別に行い，最後に各調査区画の北壁と東壁の断面実測を行うこととした．ただし，複合斜面をなし斜面の急なＢ地区では断面図への遺物出土地点投影を正確にするため，基軸線に直行する方向で各調査区画内を２分する畦畔を設け，それの北壁断面実測も行った．最終的には，２つの調査区画を区分する畦畔を除去し，斜面方向に長い４×８ｍ（場合によっては４×12ｍ）の長方形区画にした．

出土遺物の整理は，水洗い→注記（記名）→遺物台帳の作成→分類された遺物の分析等の過程を踏んでいて，簡易な作業は現場作業と併行して実施した．本年４月開設した「坂出連絡事務所」で図面・写真整理を含めた本格的な整理作業を行っているが，今回の調査による出土遺物は現時点でも約６万点にも及ぶ膨大な量であるため，十分な資料整理を行うに至らなかった．その結果，本報告書において取り扱った遺物はＢ地区とＡ地区Ｃ列０～10の計38調査区から出土したものが大部分である．そのため，本書は中間的な概報にならざるを得なかった．

Ⅳ　B地区の調査

(1) 土層序について

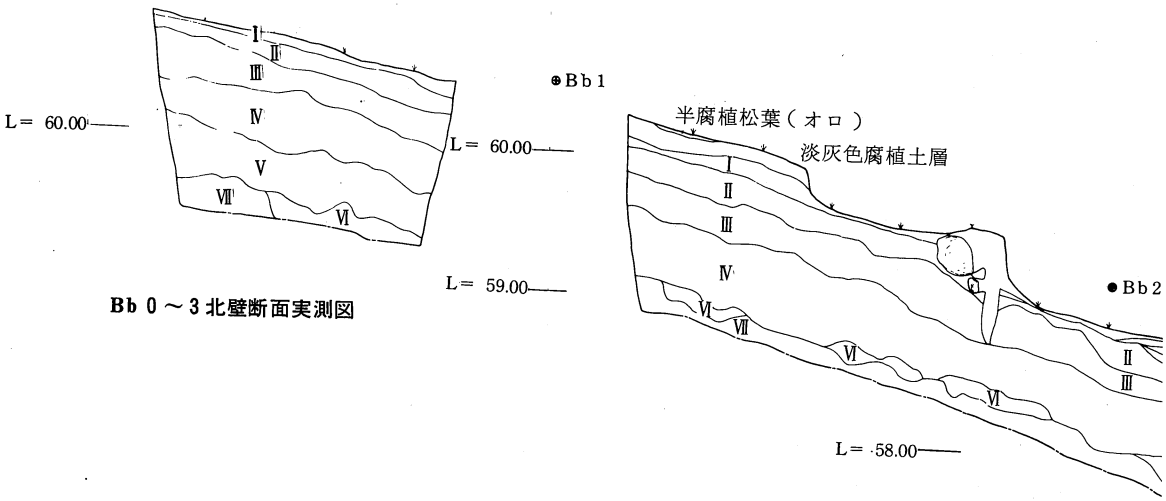
B地区において一般的に見られる土層は第5図のごとく，第Ⅰ層＝黒褐色表土層，第Ⅱ層＝暗黄褐色土層，第Ⅲ層＝茶褐色土層，第Ⅳ層＝茶白褐色土層　第Ⅴ層＝暗茶褐色土層，第Ⅵ層＝黄褐色バイラン土層，第Ⅶ＝弱風化花崗岩層（地山層）に区分できる．第Ⅱ層と第Ⅲ層は，土質，色調において明瞭に区別できる．また，第Ⅳ層は，第Ⅲ層に比較して色調に白味が加わりやや硬くなる点に違いがある．第Ⅴ層は硬質ブロック状土塊が見受けられ，第Ⅵ層は花崗岩層直上のバイラン土質を有するものである．所によっては，第Ⅰ層～第Ⅶ層以外に第Ⅰ層上部に淡灰色腐植土層，第Ⅶ層上に細砂粒を含む黄灰白色土層等が存在する．Bbo・do・fo・ho の4調査区画は，尾根上の土層序とそれに続く斜面部の土層序との間に逆転現象（流水等による上位置にある土砂の下方区画への覆いかぶさり）があるか否かを確認する目的で設定したものだが，実際はb・d・f・h各列の1～3調査区画と連続する土層序を示し，逆転現象がないとの結論を得ている．

土層序について，Bb列の0～3，Bf列の0～3，Bhの0～3の調査区画北壁について観察を試みた．第Ⅰ層は，各列とも3区で厚く，b_3では最厚で20～30cmを示す．第Ⅱ層も第Ⅰ層と同様な傾向をみせ，b_3において40cmを測る箇所がある．このことは，Bb_3 がA地区とB地区が相接する線の低所に位置することから，上方からの流土によるものと判断してまず誤りがないであろう．第Ⅲ層は全域において約20cm前後のものが見られるが，h_2・h_3において40～60cm厚にも及ぶ．第Ⅰ層～第Ⅲ層はどの調査区画にも見られ，ほぼ整合をなす．第Ⅳ層の厚い部分を追跡すればBb_1 → Bb_3への方向（等高線に直交する方向）が見受けられるが，h列においては存在しない．第Ⅴ層は，b・h列には殆んどなく，f列に集中的に見られる．しかも，f_1 では第Ⅳ・Ⅵ層への凹凸が激しく厚さ5～30cmのバラツキが見られる．第Ⅵ層は，h_0・h_3では見られないが，他の調査区画においては継続的に，しかも10～20cm厚のものが多少の起伏を持って存在する．第Ⅶ層は，どの調査区画でも凹凸を示して存在する．第Ⅴ～Ⅶ層間に見られる凹凸の原因については確実な根拠を持ち合わせていないが，流水・霜柱・松根等自然の営力によるものと考えられないだろうか．地表から地山層までの深さについては，各列とも下になるほど深くなる傾向が，h列で特に顕著に見られる．このことを地形図から検討すれば，旧地形の尾根筋は標高70mの平坦部からA地区の南側に位置する採石丁場上を通り，西方丘陵の標高50mの鞍部に至るものである．つまりBb_0 区画周辺は，上方からの流土の溜りであり，尾根筋に近いh_0は削り取られるだけであったと考えられる．

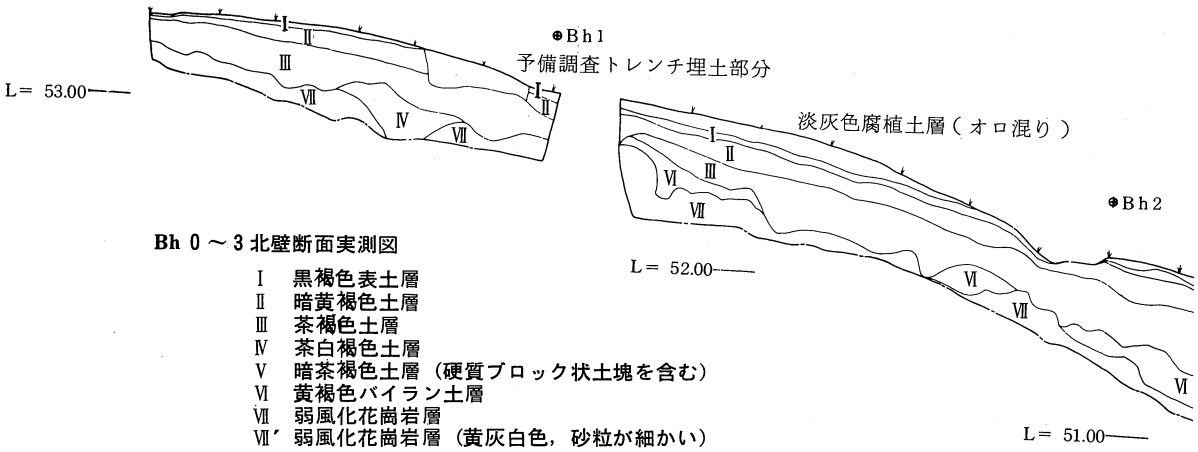
遺物を層位的に見ると全て第Ⅰ層～第Ⅳ層中において出土しており，特に第Ⅱ層・第Ⅲ層に集中している．おおむね，旧石器時代に係る遺物は第Ⅰ層～第Ⅳ層にかけて，石鏃・弥生式土器片などが第Ⅰ層～第Ⅲ層にわたって検出されている．第Ⅳ層では旧石器時代の遺物が大半を占めるが，一部の区画では土器片の混入が認められ，同層が旧石器時代単一の文化層をなすものとは理解し得ない．

(2) 遺物出土状況

出土遺物には，サヌカイト製のナイフ形石器・スクレイパー・尖頭器・翼状剥片・縦長剥片・石核・多数の砕片が見られるほか，石鏃や弥生式土器片などがあり総数1,548点を数える．サヌカイトによるものは1,271点に及び全体の82%にのぼり，そのうち石器の占める割合は約7%である．石器の多くはナイフ形石器と石鏃であり，両者を合わせると石器中の約80%にもなる．サヌカイト・弥生式土器片以外では，叩き石1点・チャート1点・黒曜石2点が検出されている．次に出土遺物



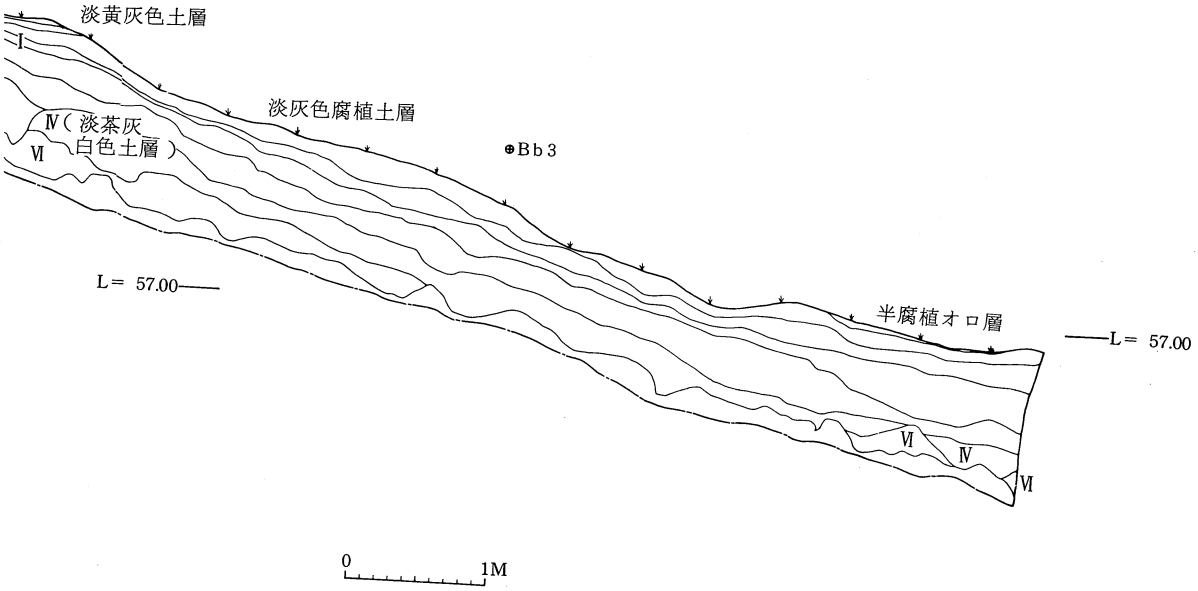
Bb 0 ～ 3 北壁断面実測図

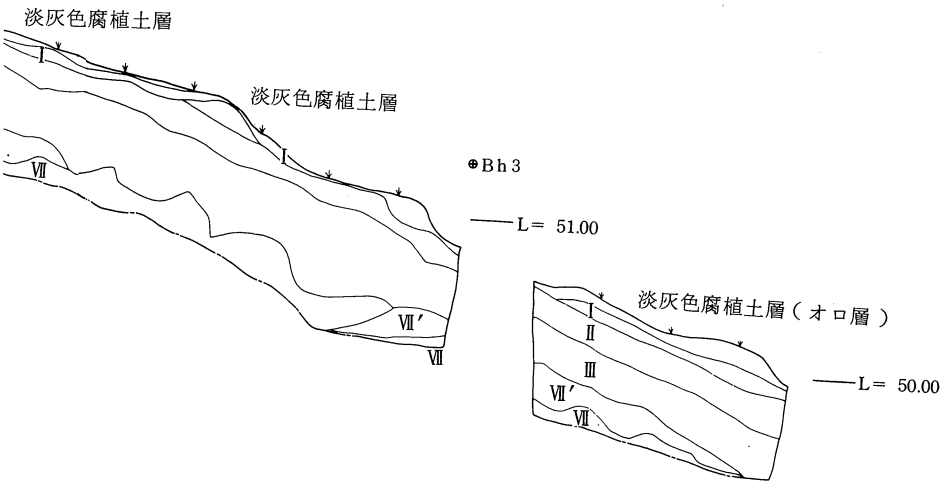


Bh 0 ～ 3 北壁断面実測図

Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層
Ⅳ　茶白褐色土層
Ⅴ　暗茶褐色土層（硬質ブロック状土塊を含む）
Ⅵ　黄褐色バイラン土層
Ⅶ　弱風化花崗岩層
Ⅶ′　弱風化花崗岩層（黄灰白色，砂粒が細かい）

第 5 図　Bb，Bh 列北壁断面実測図


淡黄灰色土層
Ⅰ
淡灰色腐植土層
Ⅳ（淡茶灰白色土層）
Ⅵ
⊕Bb3
L= 57.00
半腐植オロ層
L= 57.00
Ⅵ
Ⅳ
Ⅵ
0
1M


淡灰色腐植土層
Ⅰ
淡灰色腐植土層
Ⅰ
Ⅶ
⊕Bh3
L= 51.00
Ⅶ′
Ⅶ
淡灰色腐植土層（オロ層）
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅶ′
Ⅶ
L= 50.00

の平面的分布について考えてみたい（表１，第６・７・８図）.

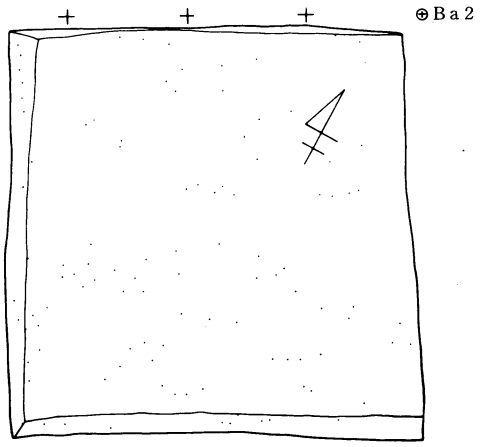
(ア)　Ａ地区に近いほど出土点数は多く，ａ列では１m²あたり７点，ｇ・ｈ・ｉ列では１m²あたり２点にも満たない.

(イ)　ａ～ｉの各列については，尾根筋に近い調査区画ほど出土点数が少なくなる．この傾向は斜面傾斜の比較的ゆるやかなｆ～ｉにおいて如実に見られる．これらから考えると，おそらく斜面高所から移動した遺物が侵食の強い尾根筋よりも斜面中腹の２次的堆積土層に数多く留まった結果であろう.

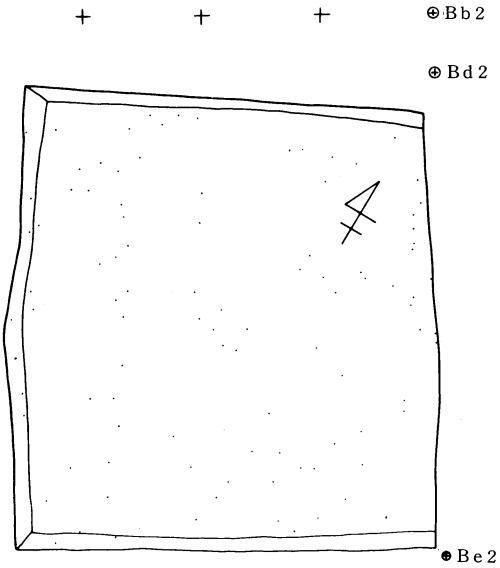
表１　Ｂ地区出土遺物数一覧表

列＼区画	0	1	2	3	合　計
a		98	110	58	266
b	37	108	68	114	327
c		86	80		166
d	43	91	97	44	275
e		74	72		146
f	13	54	70	114	251
g		14	44		58
h	5	6	18	16	45
i		4	10		14
総　計					1,548

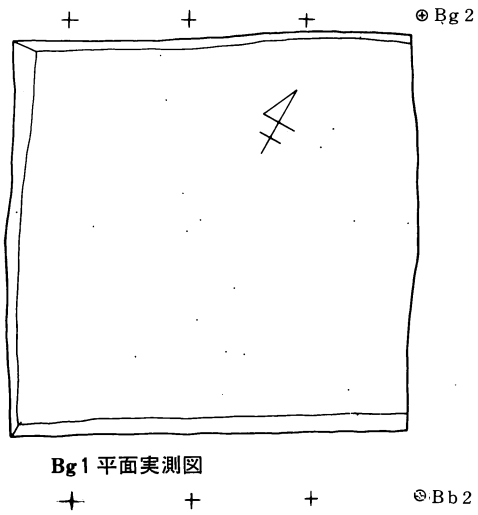
第６図　Ba１　遺物出土状況（東から）



Ba1 平面実測図

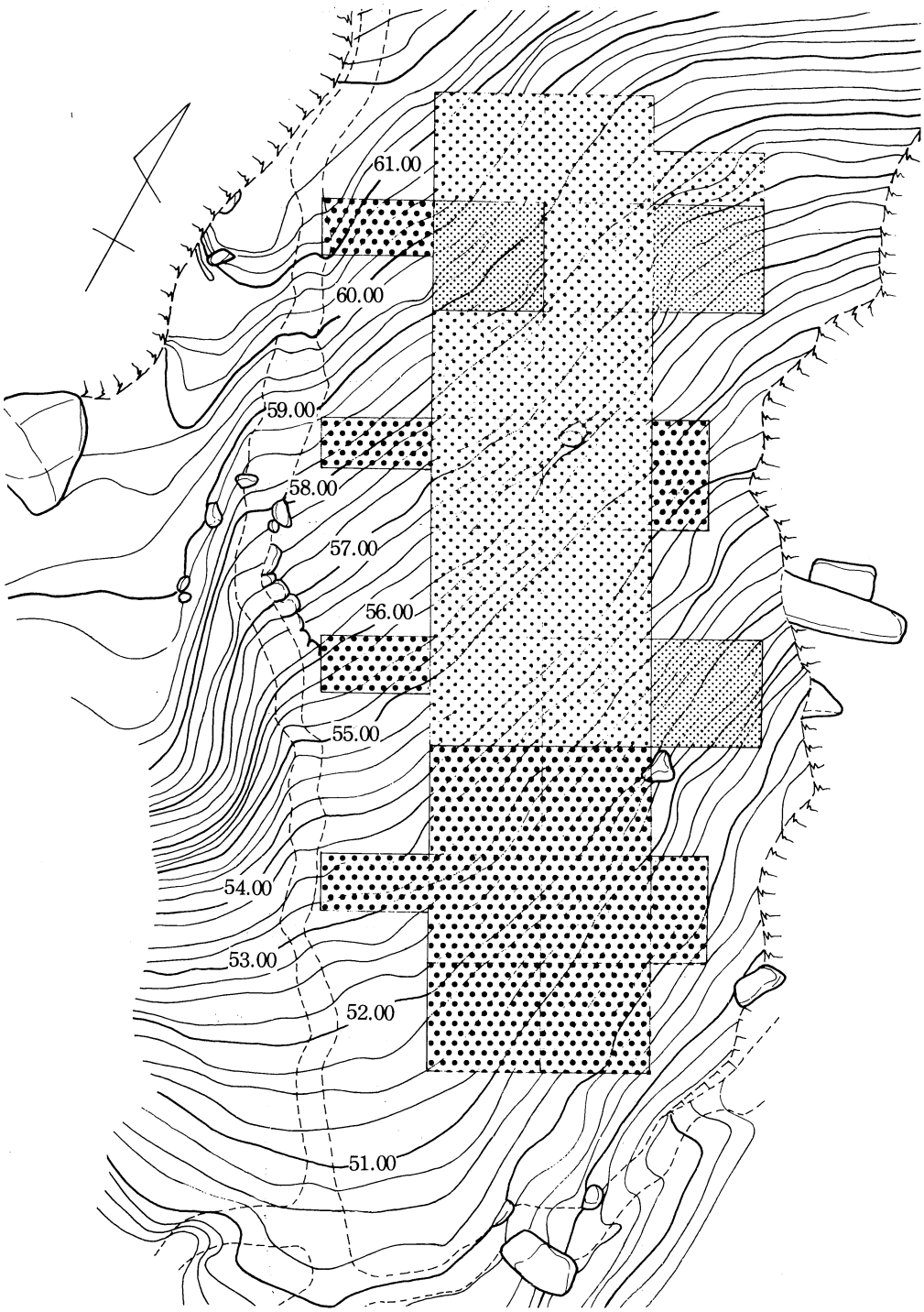


Bd1 平面実測図



Bg1 平面実測図

第7図　Ba1, Bd1, Bg1 平面実測図　0　1M



0　　10 m

100点以上

50点以上100点未満

50点未満

第8図　B地区遺物出土概況

V　A地区の調査

(1)　土層序について

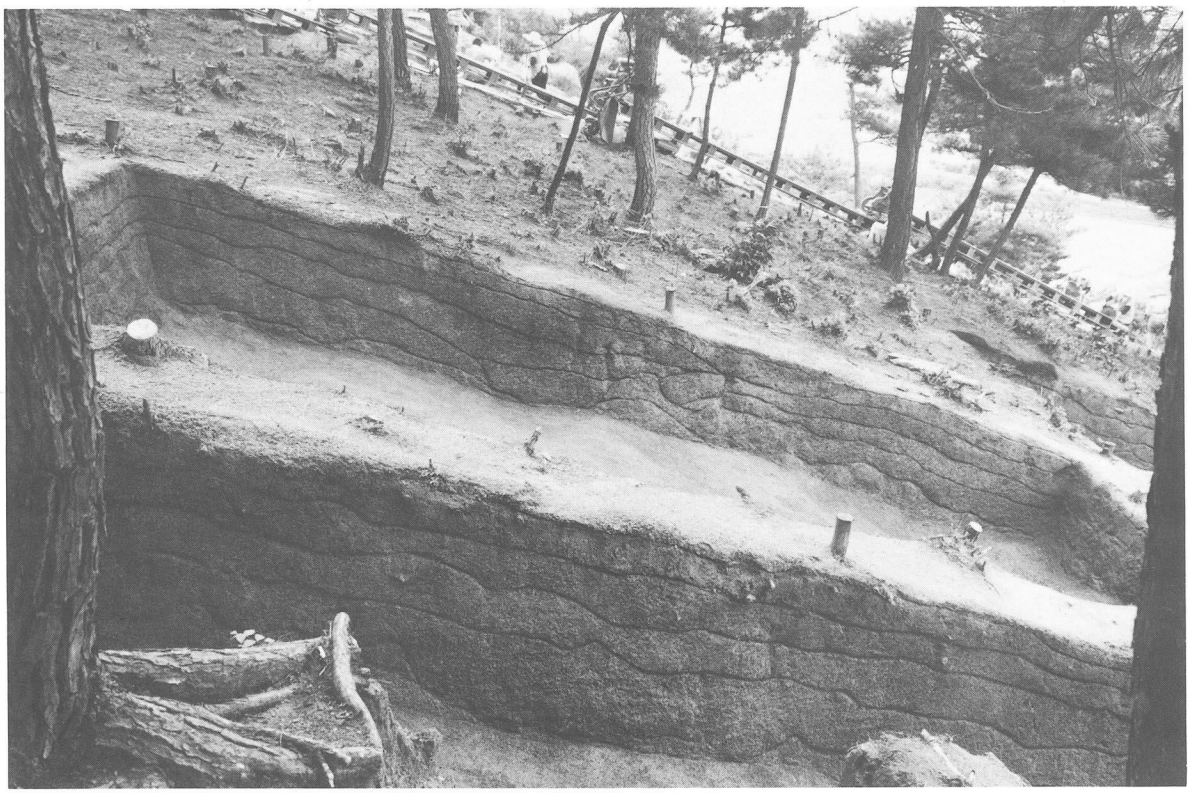
各調査区画とも北壁及び東壁の土層序について実測記録している．

土層序は，B地区とほぼ同様な層序で区分されるが，各層とも幾分薄目である．ただし，平坦部の各列1～2区画は，どれも第3層の発掘途中にあり，十分なことが言えない．ここでは，土層序の把握が容易であると考えられるAc列の東壁を観察しよう．

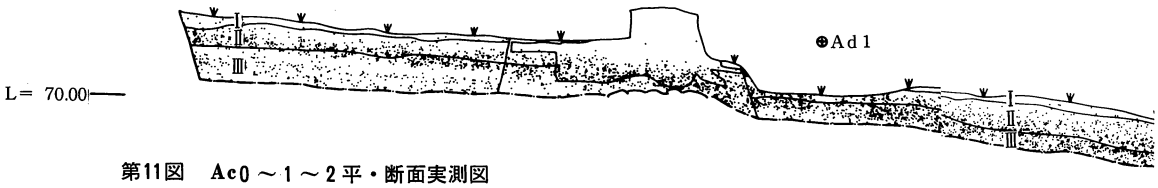
第9図　A地区調査風景

斜面の傾斜は $Ac_{1\sim2}$ にかけて10度前後と緩く $Ac_{4\sim6}$ あたりで15～17度と次第にきつくなり，B地区に近づく $Ac_{9\sim10}$ では25度をこえる．

$Ac_{3\sim4}$ の層序は，第V，Ⅶ層に若干の乱れが見られるほかは，同程度の厚さ，傾斜で整っている．$Ac_{5\sim6}$ の境界あたりでは，第V′層（硬質の茶白色土層）や第Ⅸ層（黄褐色砂質土層）がブロック状にはいり，それによって第Ⅲ～V層が部分的に途切れて層序に乱れがある．$Ac_{7\sim8}$ にかけては，第V，Ⅶ層が波状の層序となるが，第Ⅱ層～第Ⅳ層までさほどの変化がなく整っている．$Ac_{9\sim10}$ でも第Ⅱ～Ⅶが部分的に波状をなすが，各層とも上，下方で厚さに余り差のない層序である．各区画で第Ⅰ層は10cm前後，第Ⅱ層は20～30cm，第Ⅲ，Ⅳ層は20～40cmの厚さを測り，第Ⅲ層までは全区画を通して存在しほぼ整った層序を呈している．第Ⅳ層～第V層については，$Ac_{3\sim4}$ における層序の状況からみれば，$Ac_{0\sim2}$ の平坦部につながっていくようにも推測される．

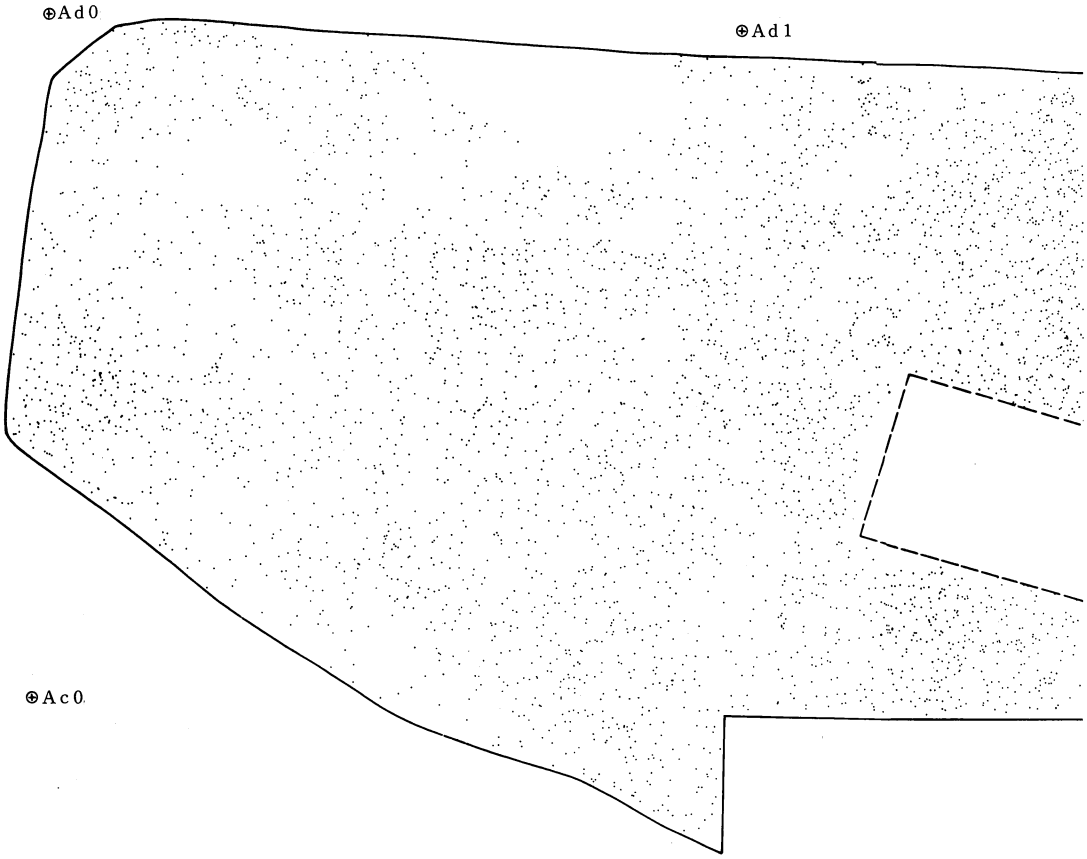


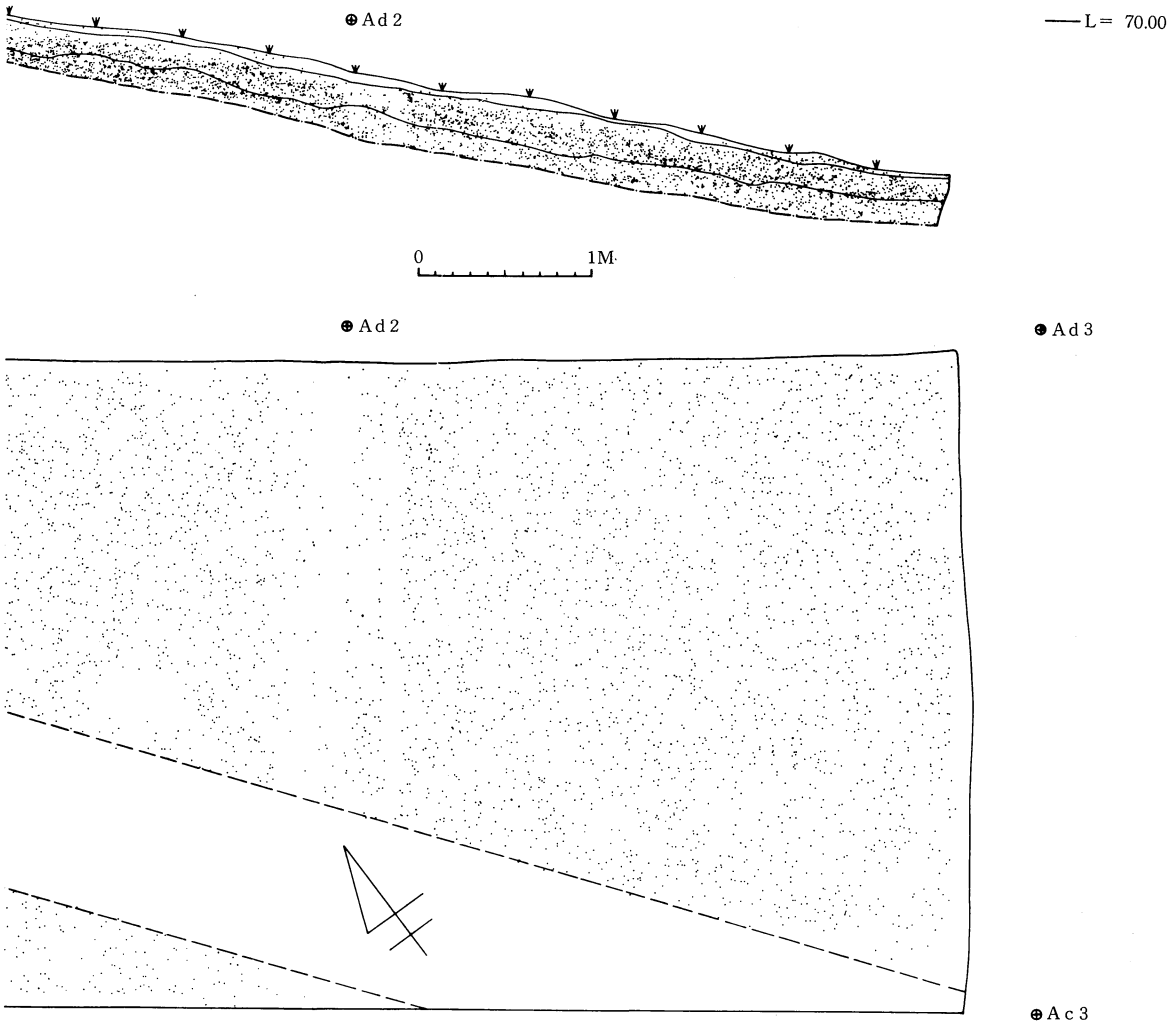
第10図　Ac 5～6東壁

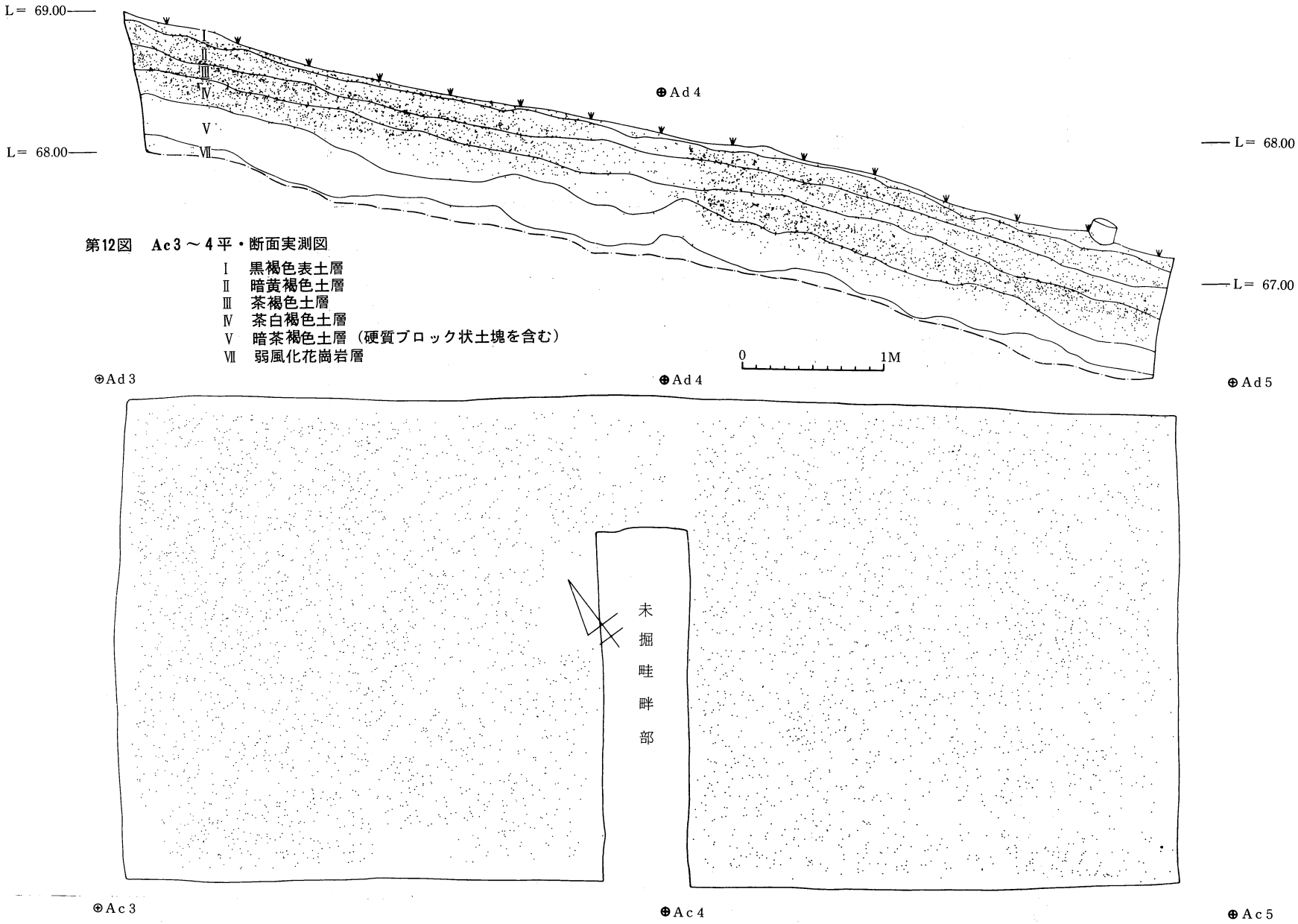


第11図　Ac0 ～ 1 ～ 2 平・断面実測図

Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層

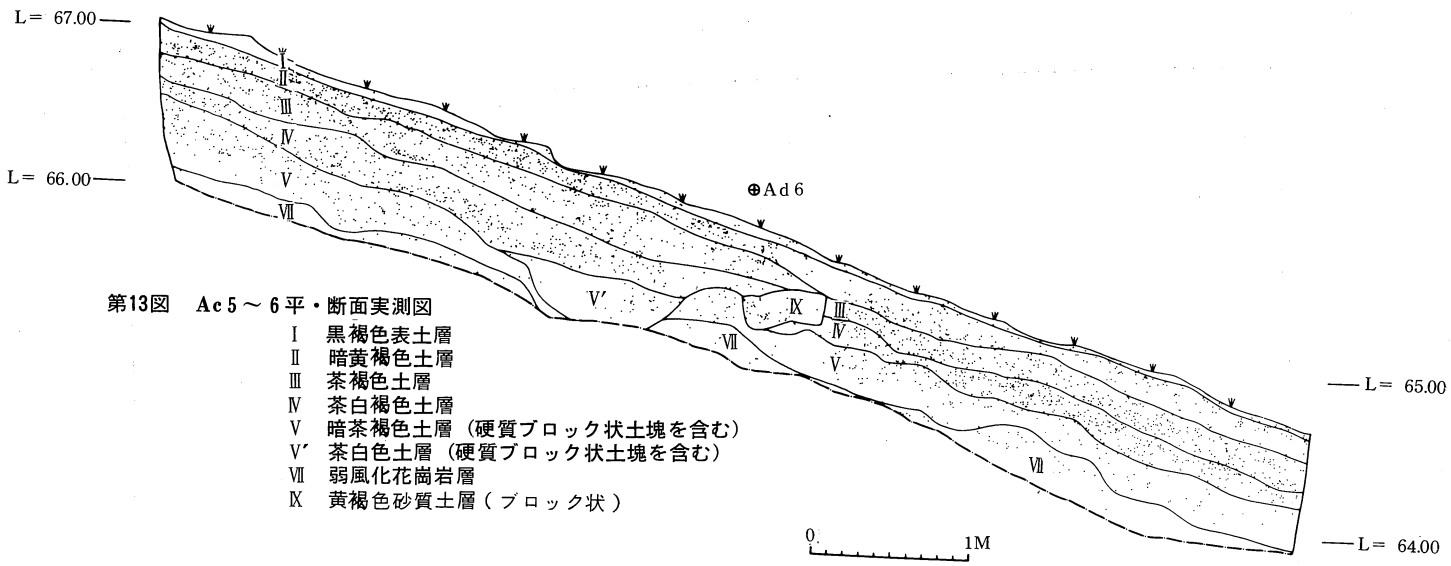



⊕Ad 2
L= 70.00
0
1M
⊕Ad 2
⊕Ad 3
⊕Ac 3



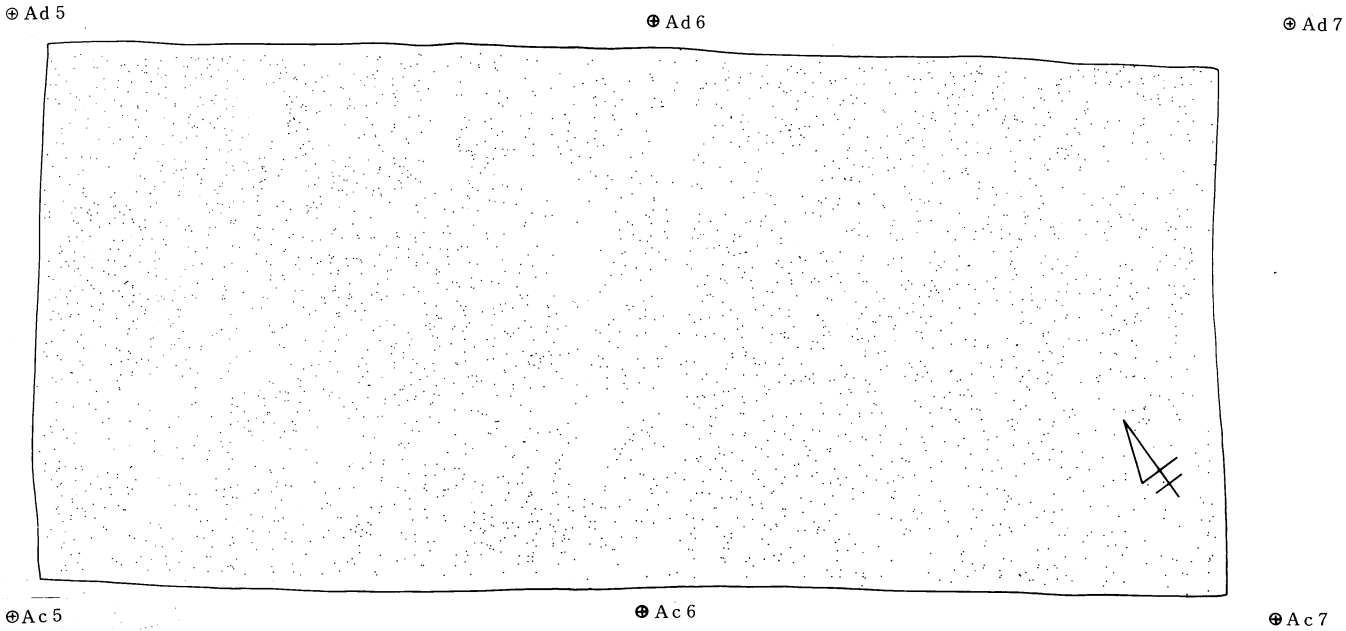
第12図　Ac 3 ～ 4 平・断面実測図

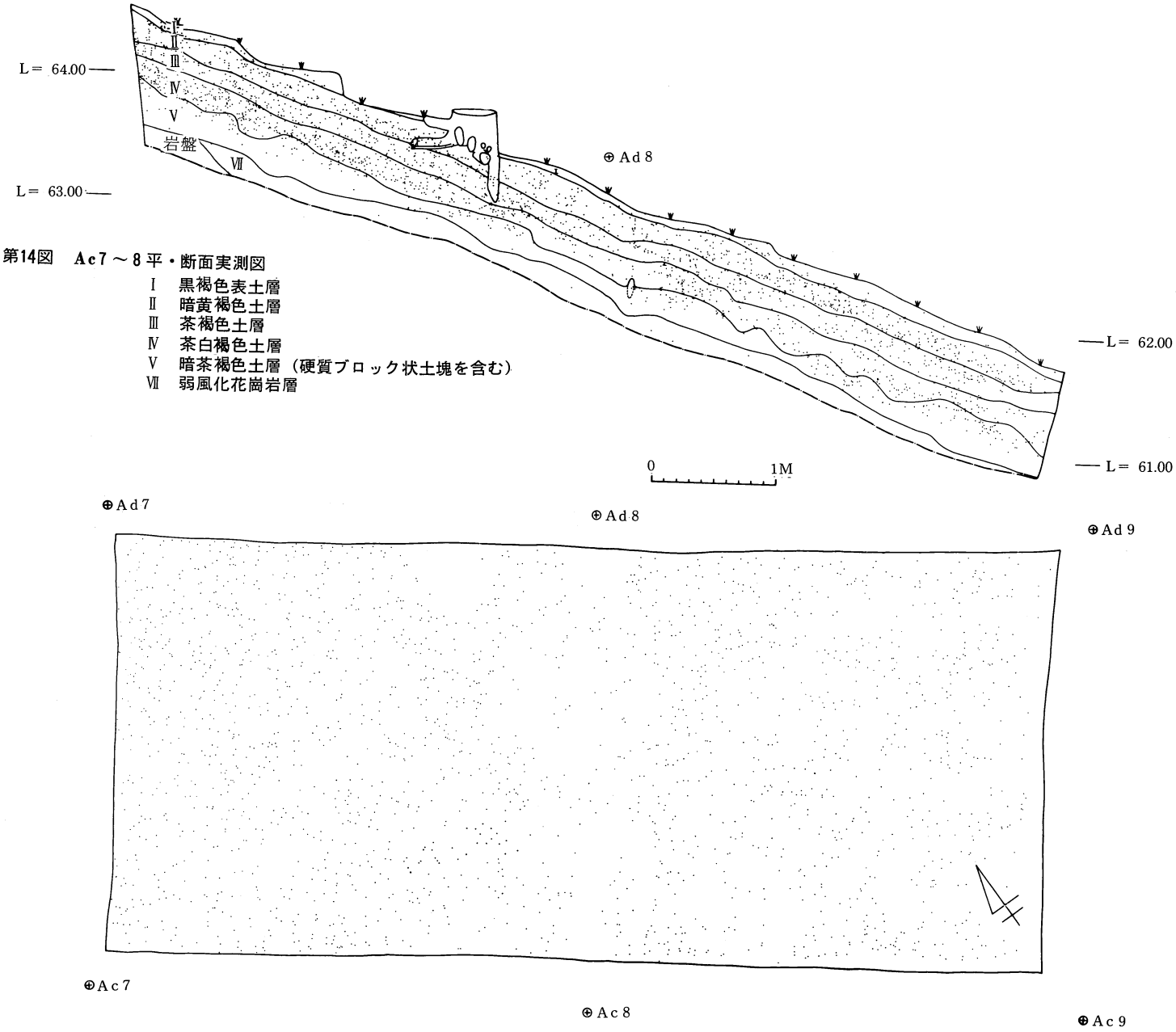
Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層
Ⅳ　茶白褐色土層
Ⅴ　暗茶褐色土層（硬質ブロック状土塊を含む）
Ⅶ　弱風化花崗岩層



第13図　Ac 5 ～ 6 平・断面実測図

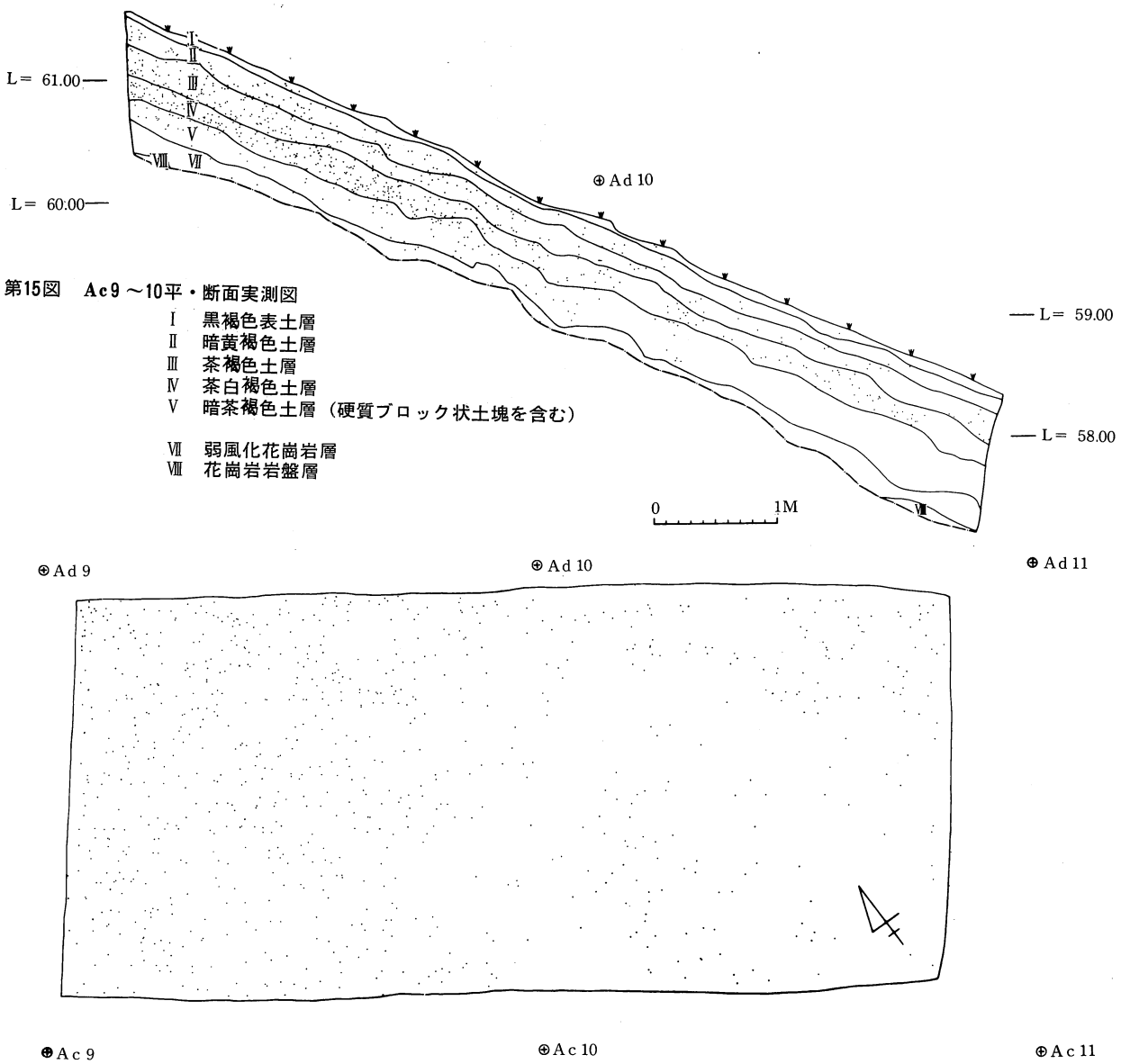
Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層
Ⅳ　茶白褐色土層
Ⅴ　暗茶褐色土層（硬質ブロック状土塊を含む）
Ⅴ′　茶白色土層（硬質ブロック状土塊を含む）
Ⅶ　弱風化花崗岩層
Ⅸ　黄褐色砂質土層（ブロック状）





第14図　Ac7～8平・断面実測図

Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層
Ⅳ　茶白褐色土層
Ⅴ　暗茶褐色土層（硬質ブロック状土塊を含む）
Ⅶ　弱風化花崗岩層



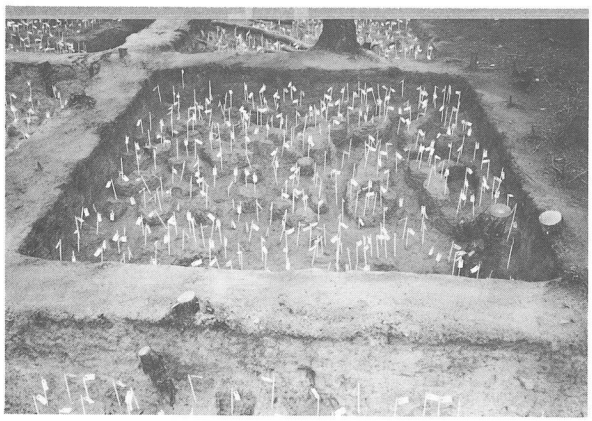
第15図　Ac9～10平・断面実測図

Ⅰ　黒褐色表土層
Ⅱ　暗黄褐色土層
Ⅲ　茶褐色土層
Ⅳ　茶白褐色土層
Ⅴ　暗茶褐色土層（硬質ブロック状土塊を含む）

Ⅶ　弱風化花崗岩層
Ⅷ　花崗岩岩盤層

(2) 遺物出土状況

出土遺物は，調査中の24区画を加えて実に57,800点にのぼる．その分布は表2のごとく平坦部近辺で圧倒的に多く，斜面傾斜が変換する下方では5分の1程度となる．さらに詳しくみると，(1)平坦部においては南側部分に濃密な分布を示し，石槌神社に近接するあたりでは著しく減少する．(2)平坦部から下るにつれて，出土数は減少するが，7～10区画では，a～c列・h～j列に比べてd・e列に出土数が多い．これは，本来平坦部の南端近辺に存在した多数の遺物が流土とともに下方へ移動したが谷状となって傾斜が強いa～c列8～10区画では，遺物の残留が少くなったことを示している．



第16図　Ac 4 遺物出土状態

いずれにしても，B地区に比して極めて濃密な遺物の分布であり，平坦部近辺の区画で1m²当り200点前後，下方でも40～50点を数える．

これを層位的な分布でとらえるため，東壁土層序中に遺物の出土地点を投影した．しかし，4m方格乃至は4×8m区画の発掘であるため，東西側で土層レベルに差を生じ，区画内全遺物を必ずしも正確に点描できたとはいえない．それでも，概ね遺物の出土は，第Ⅱ層下部から第Ⅲ層を中心としており，第Ⅳ層では少数となることが理解できる．これに発掘時の所見を考え合せると，やはり，旧石器時代に係るものが第Ⅰ層～第Ⅳ層にかけて，土器片が主に第Ⅱ層，第Ⅲ層において，石鏃については第Ⅰ層～Ⅲ層の半ばあたりまでに出土しており，同一土層中に各時代の遺物が混在する状況にある．

遺物の大半はB地区同様にサヌカイトによるものであるが，土器片は細片も含めると数千点にもなる．旧石器時代に関しては，ナイフ形石器，スクレイパー，尖頭器，石錐，翼状剥片，横長剥片，縦長剥片，二次加工のある剥片，石核などのほか極めて多数のサヌカイト細片がある．サヌカイト石器の中ではナイフ形石器が最多数を占め，次いで石鏃も相当数にのぼる．なお，表面に大きな剥離面をもった原石に近いサヌカイト角礫，円礫や石器造りに使用されたと思われる緑泥片岩とか砂

表2　A地区出土遺物数一覧表

区画＼列	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	合計
0			(2,170)												2,170
1		(1,790)	(3,218)	(1,844)	(844)	(1,296)	(889)	(1,072)	(593)	(221)	(137)	(1,058)	1,135	82	14,179
2		(1,975)	(2,535)	(1,102)	(544)	(781)	(720)	(571)	(323)	(140)	(82)	(484)	759	62	10,078
3		1,934	2,478										1,139		5,551
4		1,706	2,129										420		4,255
5		1,027	1,791					867	782	(1,002)					5,469
6		778	1,398					563	605	518					3,862
7	332	956	1,221	1,254				590	558						4,911
8	237	482	879	1,174				453							3,225
9		329	639	1,046	1,044			309							3,367
10			202	532											734
合計	569	10,977	18,660	6,952	2,432	2,077	1,609	4,425	2,861	1,881	219	1,542	3,453	144	57,801

( )内は昭和53年8月現在の出土数である．

表3　Ac列主要出土遺物一覧表

遺物＼区画	Ac0	Ac1	Ac2	Ac3	Ac4	Ac5	Ac6	Ac7	Ac8	Ac9	Ac10	合計
ナイフ形石器	47	46	66	41	46	36	34	23	11	11	6	367
スクレイパー	2	13	8	8	5	3	8	5	4			56
翼状剝片	1	7	4	6	4	6	6	2		2		38
石錐		3	3	2	2		1		1	1		13
三稜形尖頭器		4	1	1		1			1	1		9
叩石	3	2		1	1	1		1				9
石核	15	66	65	41	10	25	12	6	35	18	1	294
黒曜石		1				1		1				3
石鏃	5	14	9	15	13	6	14	7	3	3	1	90
土器片	16	15	36	40	135	265	141	119	163	97	30	1,057

岩などの細長い叩き石も見られるし，黒曜石製ナイフ形石器3点と剝片数点，チャート製石鏃1点が出土している．

先に層位的な遺物分布を示したAc列において，主要な出土遺物をとりあげると表3のとおりである．該当時期以降において斜面部への流土撹乱があったと考えてよいのだろうか．このことは本遺跡の性格づけに直接係わることであるだけに，今後より慎重に検討したい．

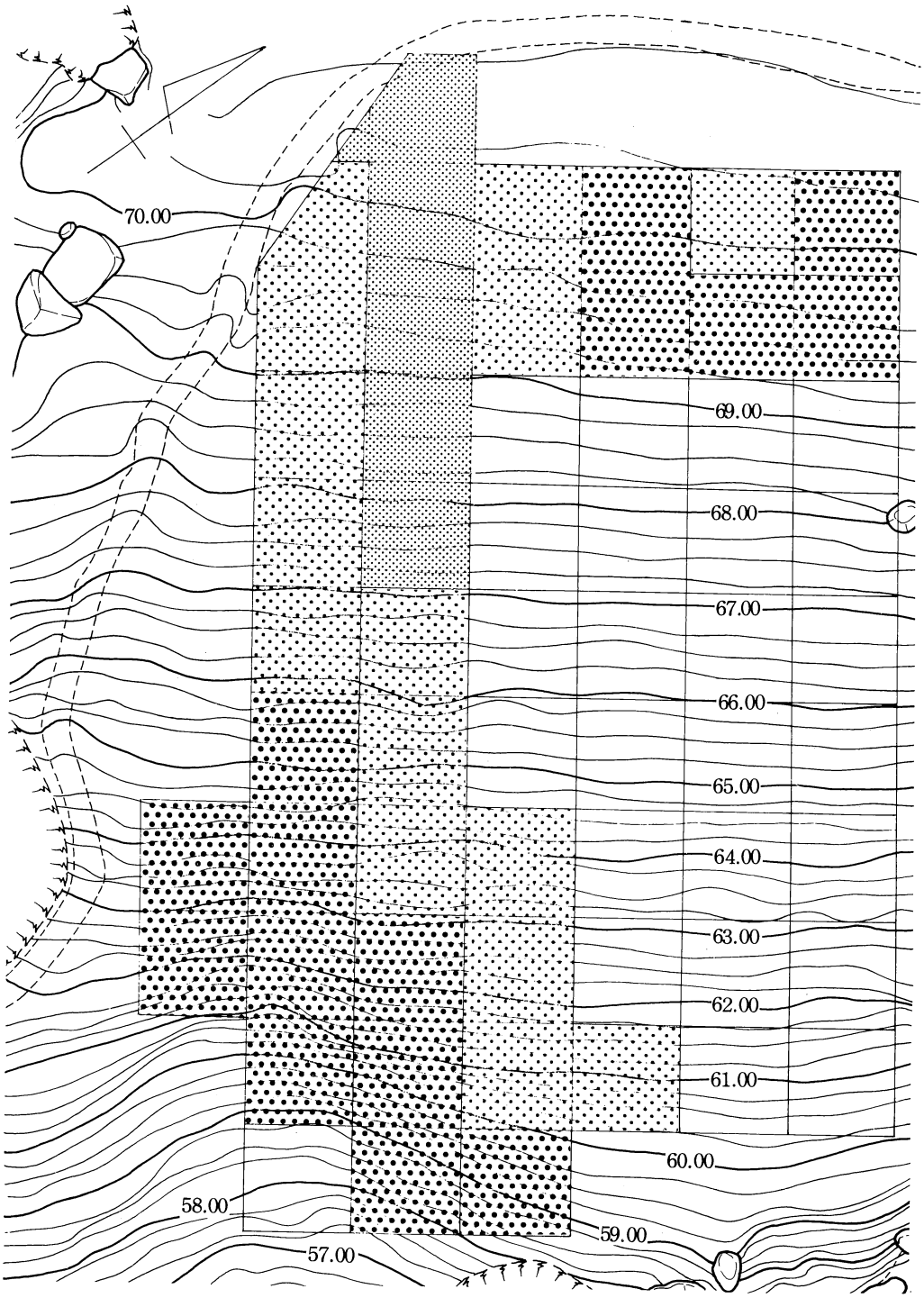
さて，これまで述べてきたような遺物の出土状況を全体としてみるとき，やはり旧石器時代の遺跡の中心が標高70mの尾根上平坦部にあることは言うまでもない．そして，平坦部近辺における濃密なサヌカイト石器，剝片の分布は，確実な包含土層におけるものではないにしても，一帯に旧石器時代に係る何等かの遺構の存在を示唆していると考えられる．

ところで，旧石器時代の遺跡には，石器や剝片類の分布にいくつかの平面的なまとまりが存在するとされている．そのような石器，剝片類の集中単位を「ユニット」とか「ブロック」と呼び，そこでの石器の組成や石核，剝片類の在り方を把握することによって遺跡の認識をより確実なものにしようというわけである．

本遺跡の場合，先述の如く，平坦部近辺の遺物分布には場所による多少の差が見られるものの，それぞれにおいては均等な分布状況を呈し，格別いくつかの石器，剝片類のまとまりを見出せない．勿論，そうした遺物集中単位の追跡には，石器の組成や石核，剝片の接合資料を手がかりとする捉え方が必要なわけで，現時点における観察は必ずしも正確であるとはいえない．

それにしても，特に平坦部南側部分における遺物の密集度や石器，石核をはじめとする莫大な量のサヌカイト剝片の出土は，旧石器時代の石器製造址の存在を充分に想定させるものである．

また，多数の土器片の出土から弥生時代の遺構が発見される可能性も考えられる．



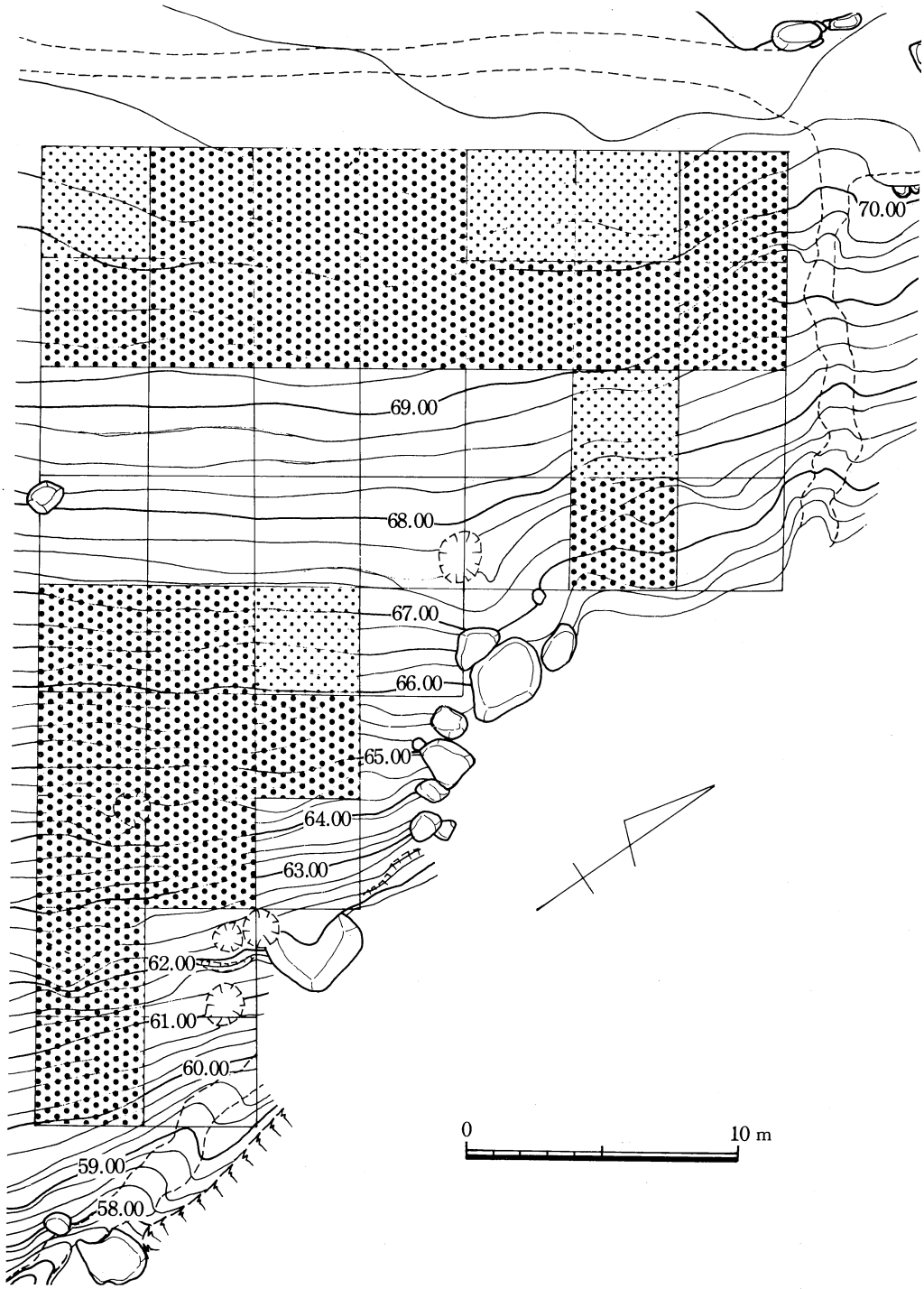
0　10 m

2000点以上

1000点以上2000点未満

1000点未満

第17図　A地区遺物出土概況（1）



2000点以上

1000点以上2000点未満

1000点未満

第18図　A地区遺物出土概況（2）

(3) 礫群について（第19・20図）

平坦部南端に近い $Ab_{1.2}$ $Ac_{0\sim2}$ の5区画において，花崗岩の拳大割石が帯状に集まるところを2ケ所検出している．ともに，表土下25～30cmほどの第Ⅱ層下部から第Ⅲ層上部にかけて検出され，その形状から帯状小礫群と称している．ただし，礫の在り方には粗密があって，きちんと置き並べているというような状態ではない．特に下方は，ほぼ Ab_2 区画内にあって礫もまばらであり，それより北へは延びない．

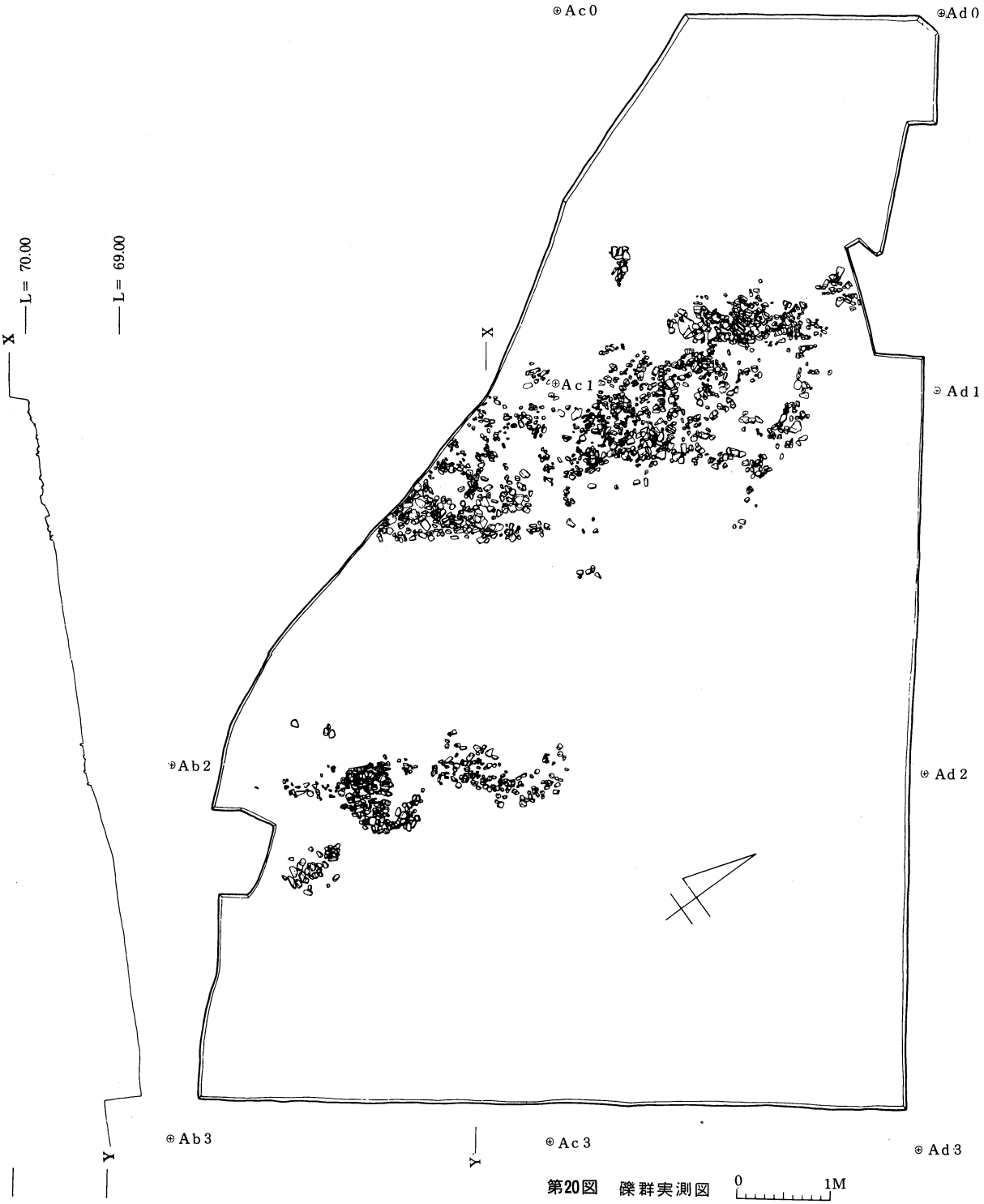
上方の礫群は，幅1.3～1.5mの帯状に集まり，現状よりさらに南北方向への延長が予想される．このように上，下の礫群には差違が見られるが，下方の礫群が存在するところでは両者が約2m間隔で平行するかのようである．

これについて，(ア)礫の大きさがほぼ揃っている，(イ)帯状に集まる，(ウ)上方の礫群は南北方向への延長が予想され，それは平坦部の縁辺を区画しているかのようである，などの諸点があり，人為的なもののように見受けられる．

なお，礫そのものは風化のかなり進んだ花崗岩の拳大割石の形態を有するほかには何の変哲もないものであり，付近でこれに係る遺構も検出されていない．Ac_1 の出土遺物数は第Ⅰ層から礫群検出面までの間に，これまでの最高3,218点を数えている．礫群のレベルで出土したものは，ほとんどがサヌカイトの石片で土器片はない．

いずれにしても，この礫群がどれほど延長するものか，全体の形状がどうなるのか，下層の状況がどのようであるのか，出土した遺物がどのように係わりをもつのか，など礫群の性格を判断する材料を得るには，今後の調査を待たなければならない．

第19図　礫　　群



第20図　礫群実測図

Ⅵ　出土遺物

両地区の主たる遺物を一括して略述する．

ナイフ形石器（第21～23図，付表１～５，図版７(2)，８(1)・(2)，９(1)・(2)）は，既述のとおり出土石器中で最多数を占め，本遺跡の性格を特徴づけるものである．その大小各様のものを綿密には区分し難く，素材をどのように加工しているかという視点から，一応次のような形態分類を試みた．

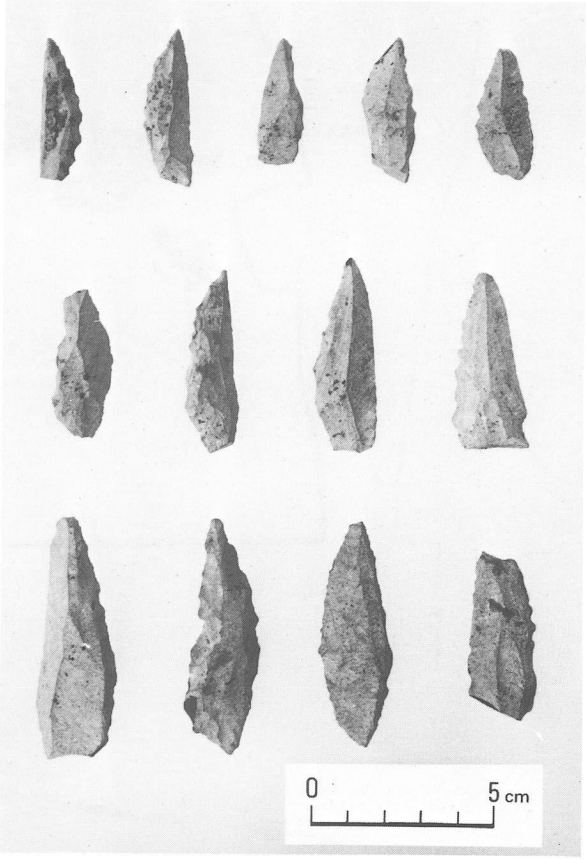
(Ⅰ) 打面部の調整に加えて，刃縁部のすべてにも主要剝離面側からの調整を施している．刃縁部の調整にはいたって細かいものと，粗いものがあるが，いずれも先端部が尖り，尖頭器状に作られている．しかし，その断面は，(1)身の薄い三角形をなすものと，(2)ある程度の厚さをもった台形状をなすものとがある．前者には長さ3cm前後，後者には6cm前後を測るものが多い．

(Ⅱ) 打面部の調整に加えて，刃縁部の上・下半部どちらかに調整を施しているが，上半部に調整をみるものは少ない．これには，断面が，(1)三角形状をなすものと，(2)台形状をなすものとがある．

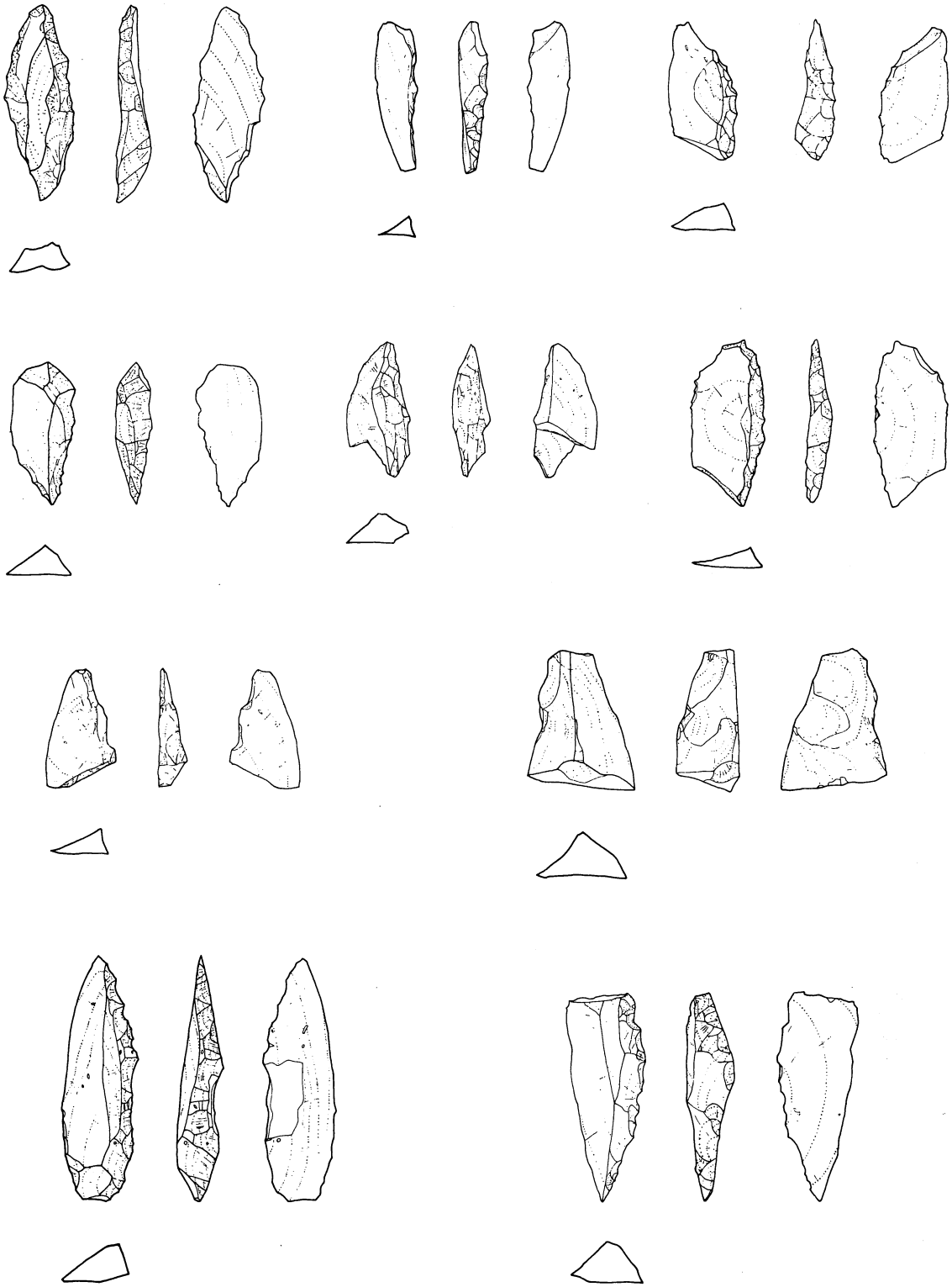
(Ⅲ) 打面部の調整のみで剝離時の刃縁部をそのまま残している．これを断面が，(1)三角形をなすものと，(2)台形状をなすものとに区別できる．さらに(1)のうちでも，㋑身の薄い三角形状をなすもの，㋺身の厚い三角形状をなすもの，㋩正三角形をなすもの，とがある．そして，さらに細かくみれば，㋑は刃部が直線的なものと緩くカーブを描くものに分かれる．㋺㋩も石器の大小さで分けられるが，㋺の小形に属するものは鋭利な先端部をもつ．しかし，これらのことは素材の影響を直接的に受けたためで，特に調整加工に係ることではなかろう．そして，(2)においても，㋑身の薄い台形状あるいは四辺形状をなすもの，㋺身の厚い正台形に近いものとに区分できる．なお，打面部の調整にも，①打面部全面に，②片半部に，③中央部付近に，など整形加工を施した箇所における違いがあることも付け加えておきたい．

ところで分類中の(Ⅰ)(2)(Ⅱ)(2)(Ⅲ)(2)については器形や大きさにかかわらず，断面が台形状ないしは四辺形状を呈して，いわゆる瀬戸内技法で説明されている横剝ぎ翼状剝片を素材とした国府型ナイフに属するものである．また，(Ⅰ)(1)(Ⅱ)(1)(Ⅲ)(1)の断面が三角形状を呈するものの中でも，(Ⅱ)(1)(Ⅲ)(1)－㋑・㋺において国府型の範疇で把握できるものが含まれている．勿論，そのうちには不定形な横剝ぎ剝片を素材としたものもある．(Ⅲ)(1)－㋩も不定形な素材を利用したものであろう．それらは従来，宮田山型と称されてきた形態に該当する．同じく，不定形な剝片を素材としながらも(Ⅰ)(1)の如く，特に小形のものを区分すると井島型と称されるものに相似する．今，正確な数字をあげるには至らないが，国府型とされるものが全体の半ば以上を占めるようである．

縦長剝片を整形加工したナイフ型石器は，剝片出土数の割にはごく少数である．断面が三角形となる剝片の一方の刃縁部を主要剝離面から調整し

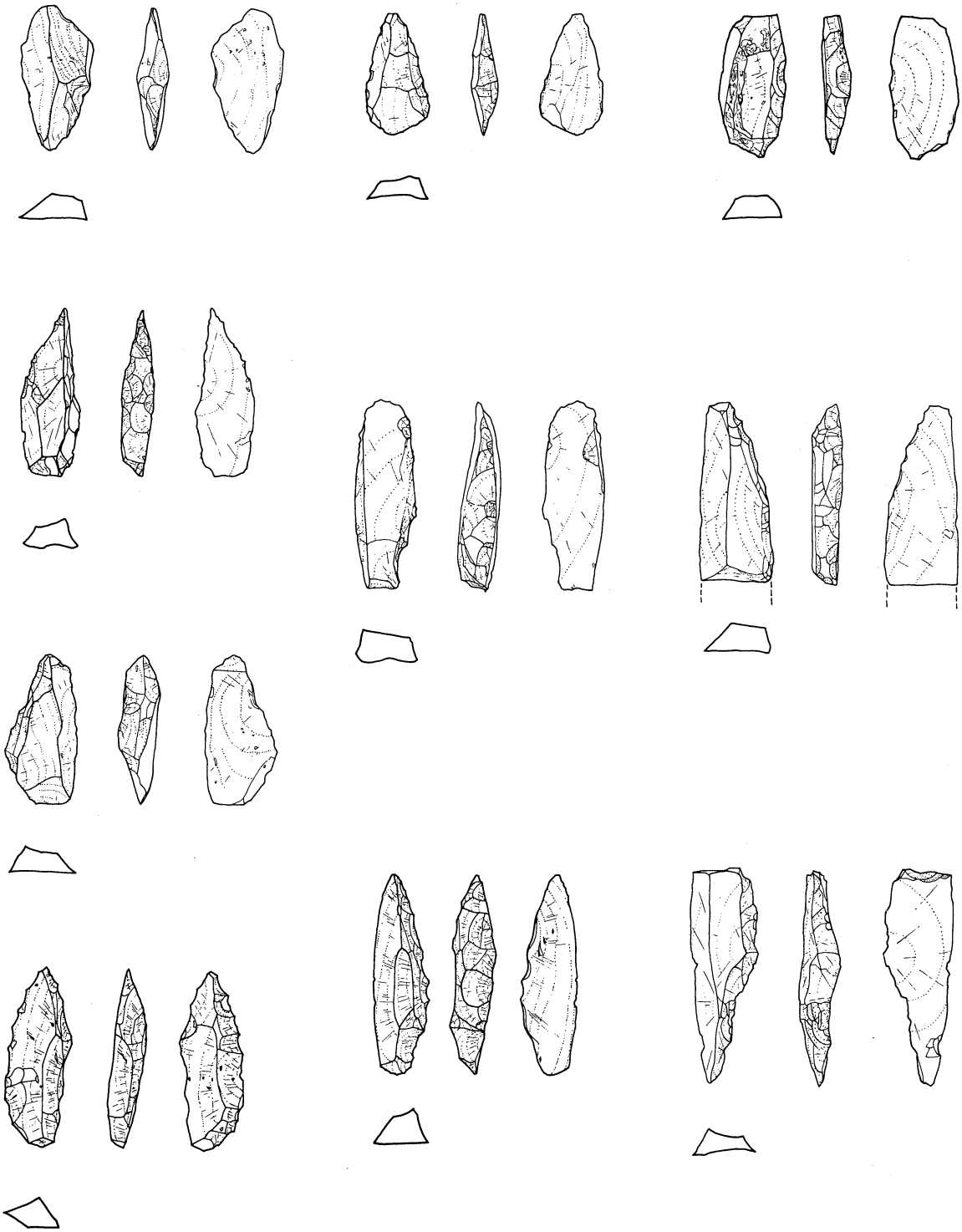


第21図　ナイフ形石器



第22図　ナイフ形石器実測図（その１）

0　5 cm



第23図　ナイフ形石器実測図（その２）

0　5 cm

ている．

3点の黒曜石製ナイフ形石器は，どれも長さ3.5cm，幅1cm前後の小形のもので，縦剝ぎの剝片を素材としている．一方側は背部の整形を行い，他方は基部に近い刃部に調整痕がみられ，断面は三角形を呈する．

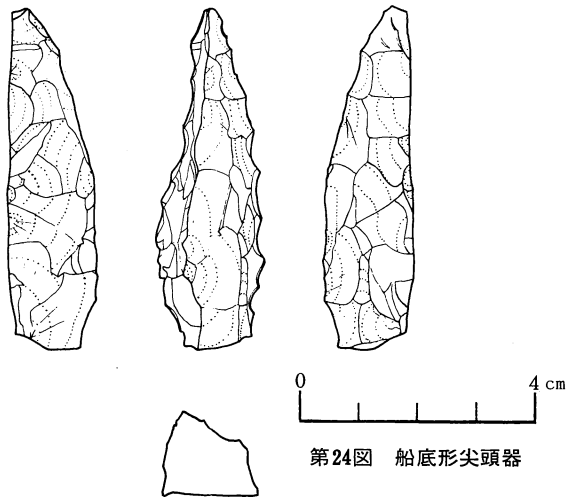
翼状剝片では，形の整った典型的なものは少ない．これは翼状剝片を素材とするナイフ型石器の出土数が多いことからみて，適当な剝片のほとんどはナイフ形に整形加工されており，残余のものが出土したことを物語っている．横長剝片は，翼状剝片や縦長剝片に比して圧倒的に多い．これらの剝片を剝ぎとった石核も多数出土し，なかには翼状剝片石核としての好例もかなりな点数見あたるので，接合資料として製作技法の考察もできる．

尖頭器の出土数は少ないが，三稜形尖頭器（第24図，付表5，図版10(1)），柳葉形尖頭器（第25図，図版10(2)），有舌尖頭器（図版10(2)）の三形態がある．柳葉形・有舌尖頭器は各1点で，他はすべて三稜形とするものである．三稜形では，中ほどから基部にかけて，あるいは先端部を欠損する出土例が多いが，完形のものでは長さ5～6cmほどである．横長剝片を素材として，背面には主要剝離面をそのまま残し，両側縁から急角度の調整剝離を加えて尖端部をもった細長い器形を作り出し，さらに正面中央の稜線部からも両側縁に向かって調整を施している．断面は概ね正三角形にちかい形状をなす．素材や調整の関係で器形にゆがみを生じたもの，正面中央にわずかの平坦部を残し，明瞭な稜線部をもたないもの，先端部がさほど鋭利に尖らないものなどがある．

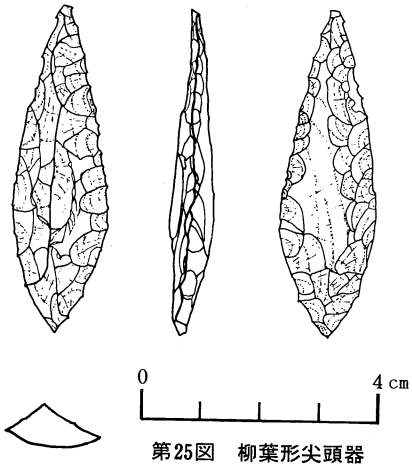
柳葉形としたものは，長さ5.5cm，幅1.6cm，厚み0.75cm，重さ4.9gを測る．中ほどからやや下部で最大幅をもち，それより両側縁が緩くカーブして基部が尖る．正面右側縁からの調整は細かくていねいに見えるが，左側縁では粗く，中央部に稜線部と未調整部分が残る．背面も，両側縁辺に調整を施しているが，中央部には主要剝離面が残る．そのため，断面が底辺のふくらむ三角形状を呈する．

有舌尖頭器は，現状で長さ5.5cm，幅1.65cm，厚さ0.45cm，重さ4.1gの柳葉形の身部に舌部を有したものであり，左右対称の均整のとれた器形である．舌部は一部を残して欠損する．両面の調整は，ていねいで，ほぼ全面に及び両側縁が鋭く，断面はレンズ状となる．

削器，掻器（第26図）については，先にスクレイパーと総称してとりあげた．いずれも不定形な剝片を利用したものである．例えば，大小横長剝片の刃縁部に背面からの調整加工を施して鋭い刃部を直線的に，あるいは外湾気味ないしは弧状に作り出している．各々は直刃式，曲刃式削器とよばれている．また，剝片の両側縁に両面側から調整を加えた両刃式に属するものも見られる．本遺



第24図　船底形尖頭器

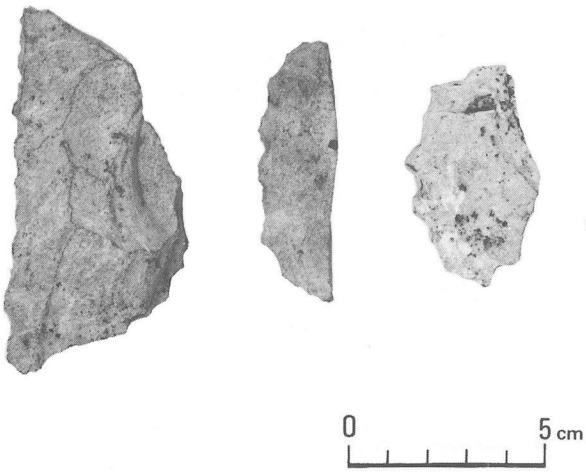


第25図　柳葉形尖頭器

跡においては薄くて鋭い刃部を有した削器の方が多いようである．

石錐（揉錐器）は，不定形な刃器や剝片の一端に両側縁からの調整によって断面三角形状の尖端部を作っている．把握部とするところはあまり整形されておらず，素材の面影が残る．

叩き石（第27図，付表５）は，ほとんどが平坦部近辺で出土し，石器の製作に関して暗示的である．いずれも破損品であるが，本来あまり大きくない円柱状の形を有していたものであろう．先端部を残すものでは，そこに細かい凹凸を示す打痕が集中している．さほどの重量をもたず，サヌカイトに比べて軟質の石材である叩き石がどのように機能したのだろうか．今日の我々からみて，技術的によほど卓越していたものと思われる．

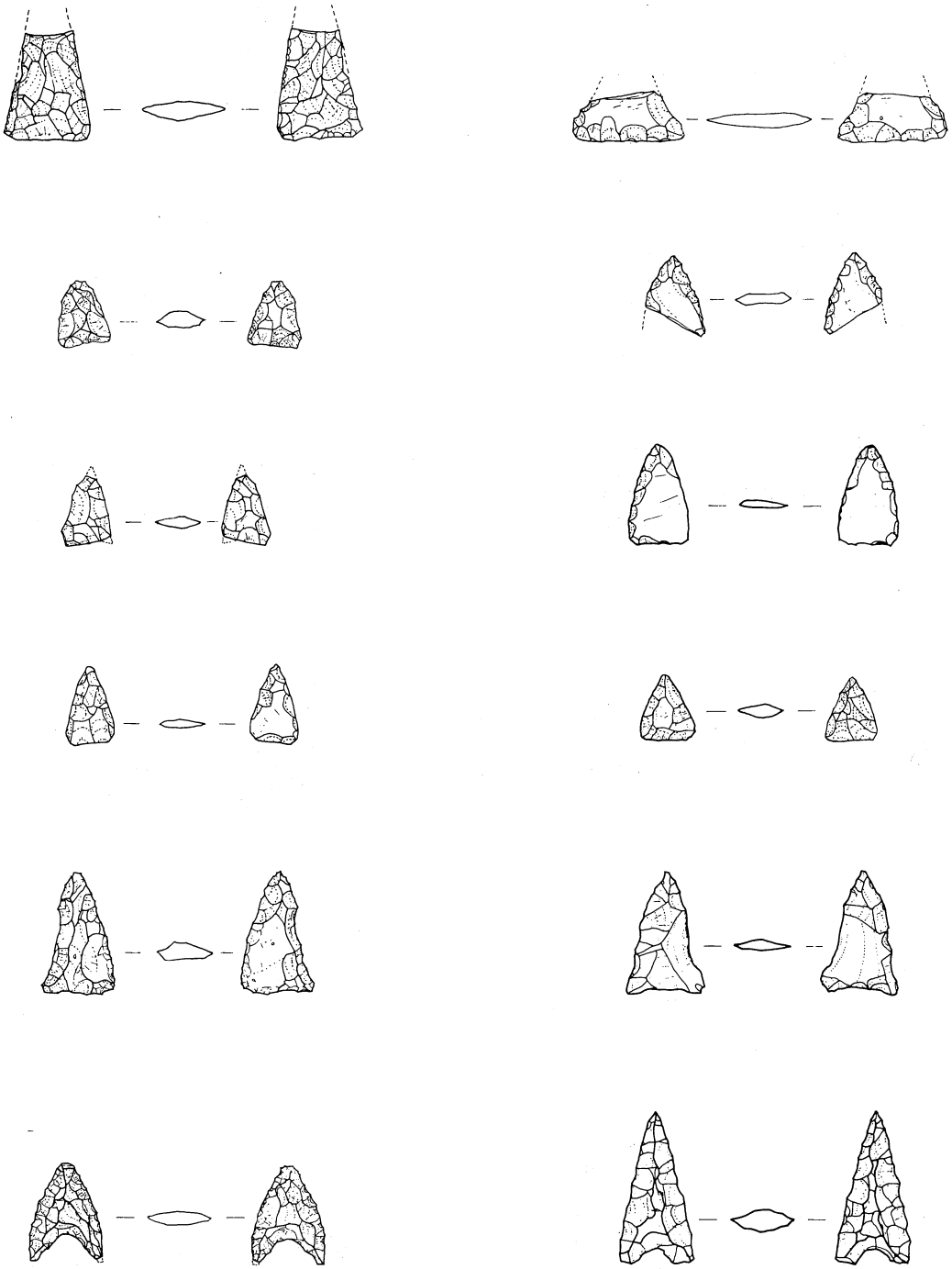


第26図　スクレイパー

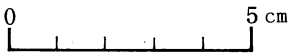
第27図　叩き石

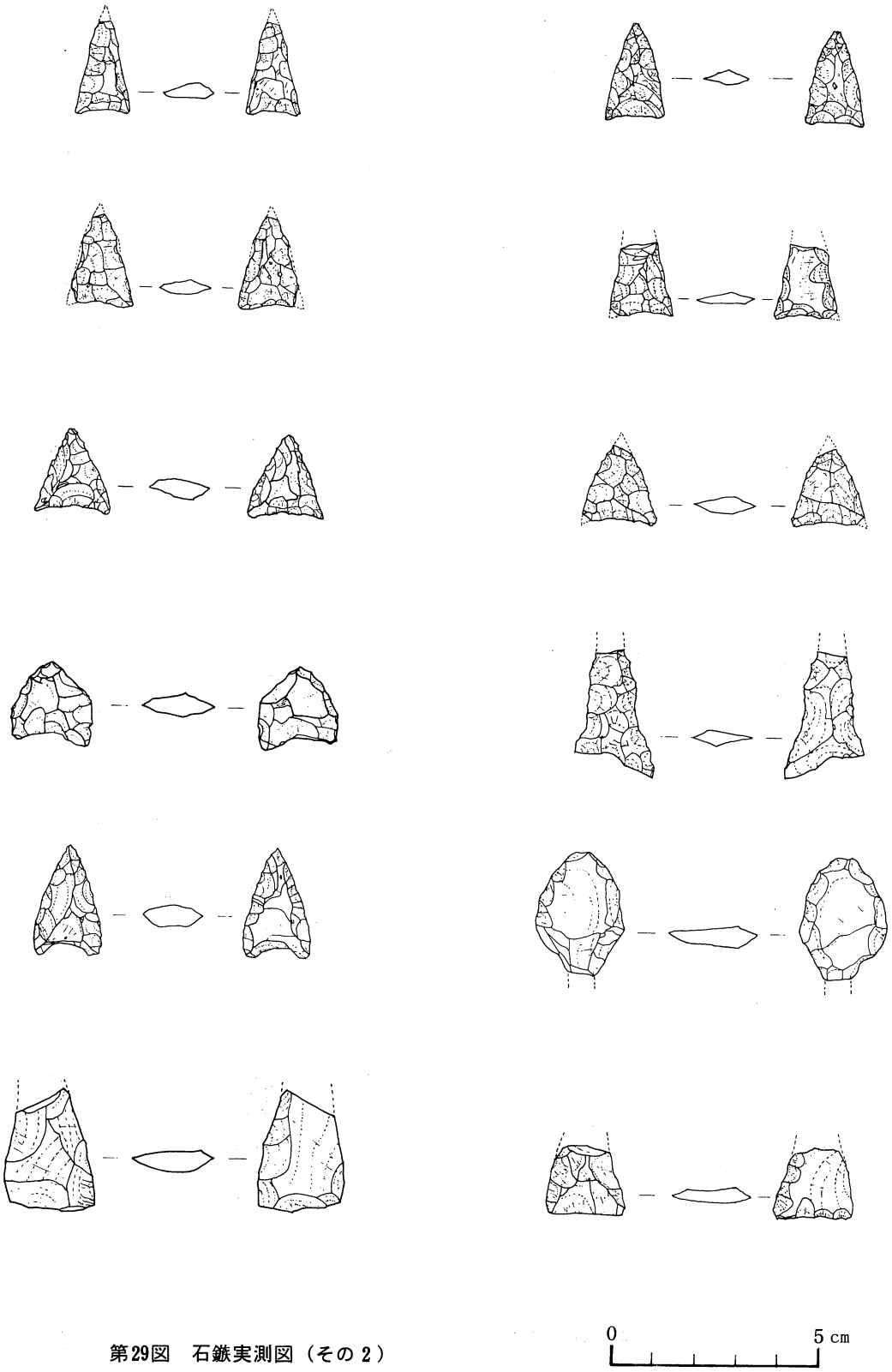
石鏃（第28・29図，付表６・７，図版11）は，これまでの出土例ではサヌカイト製の凹基あるいは平基無茎式に属するものがほとんどで，凸基式は１点出土したのみである．凹基式あるいは平基式について，形態のうえからいくつかに分類できる．たとえば，平基式では，(Ⅰ) 鏃長３cm，幅1.7前後，重さ1.5～1.9ｇで，比較的身が薄い．調整剝離が両側刃縁部にとどまり，中央部が未調整のままであるものが多い，(Ⅱ) 鏃長2.5cm，幅1.3 cm以下の小形扁平で，ほぼ二等辺三角形状に作られている．調整剝離は粗く，稜線部が曲折する．また，基辺が斜基状となるものがある．どれも器面の風化が著しい．(Ⅲ) 鏃長2.6～2.8 cm，幅1.2～1.6 cmの間を測り，両側刃縁部が中央ないしはそれより下部で内湾してくびれ部をなす．そのため，基部両端が突出気味に広がる．これは両面に厚みのある稜線部を有するものと，一面の大部分が未調整であるものとに分けられる．(Ⅳ)左右非称で稜線部が一方側に片寄り調整剝離も縁辺部にとどまり，多分に素材の形状を残している．鏃長2.8～3.5 cm，幅1.2～1.8 cmの間にある，等々の形態上の違いがみられる．

凹基式でも次のようなものがある．(Ⅰ)基部が大きく内曲して両耳状となる．鏃身のすべてにていねいな調整剝離を施し，両側刃部が細かいジグザグ状の側面をなす．ただ，切っ先から基部に向かって両側刃部が直線的に下る，緩くカーブするの差違があって，前者の両耳部は丸味を帯び，後者では鋭く尖っている．(Ⅱ)基部がわずかに凹み，鏃長2.5cm前後，幅1.2～1.4cm，重さ0.6～0.7ｇのものである．ほぼ二等辺三角形を呈する．器面がかなり風化して，調整痕の不明瞭なものが多い．(Ⅲ)，(Ⅱ)と同様に基部の凹みが浅いが，やや鏃長及び厚みが増し，幅に対する厚みの割合が大きい．両面とも厚みをもった稜線部が明瞭に存在するものと，片面にあまり厚みをもたないものがあ



第28図　石鏃実測図（その１）





第29図　石鏃実測図（その２）

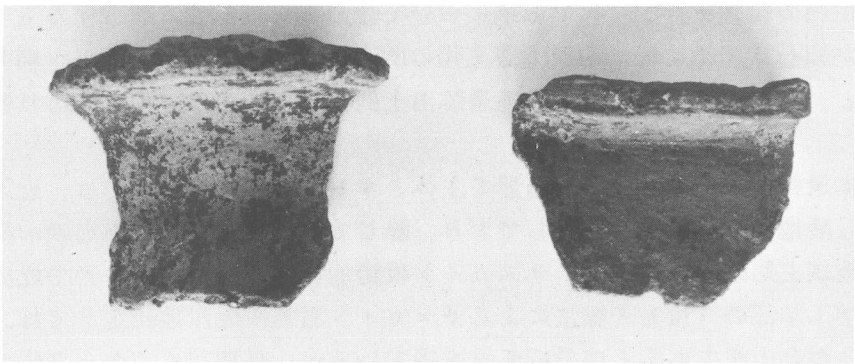
るが，調整は全面におよんでていねいである．(Ⅳ)正三角形に近い形状を有する．しかし，基部の凹みの程度によってみると，ほとんど平基に近づくもの，(Ⅱ)(Ⅲ)と同じくらいのもの，やや凹みが深くなるものとに分けられる．最初のものは鏃長2.5cm，幅1.9cmほどのものが多く，調整が粗い．次のは，鏃長2cm，幅1.5cm前後と小形になり，なかでも正三角形に近い形状をもつ．調整は前者に比べて丁寧である．最後のものは，鏃長，厚みを増し，やや正三角形状からはなれる．調整は粗いが，器面のすべてに及んでいる．(Ⅴ)両側刃部が途中でくびれるものが1点ある．基部の一方端を欠損するが，かなり抉りの深いものであると推測される．調整は粗い．

凸基式の1点については，現存長2.9cm，幅2.1cmの楕円形状を呈する身部に茎部を伴うものである．扁平な剝片の両面縁辺部のみを整形加工して，有茎鏃に作り上げている．茎部がどれほどの長さをもっていたかは不明である．予備調査以来，唯一の出土例であるだけに注目される．

以上のように，出土した石鏃は形態上，大別3類に分かれ，各類における区分を加えれば10分類になる．この分類の妥当性は別にしても，ともかく大小各様のものが見受けられるわけである．ここでは分類を通じて，まず与島出土の石鏃で特徴的な点は何なのかということを知り，その形態上の変化が時間的な経過によるものか，鏃としての機能的なものによるものか，などについて検討したいと考えた．しかし，形態上のおおまかな特徴は把握できたとしても，肝心の点に関する解答を引き出すには至っていない．特に，各類の石鏃の出土層位が第Ⅰ層～Ⅲ層までのばらつきがあり，その上，伴出遺物を具体的に指示できない出土状況から，それらがどの時代の文化に帰属するのかを検討することが困難である．そして，分類中にはこれまでの近傍の旧石器時代の遺跡で採集されたものと同様な形態をなすものが含まれているが，各遺跡においても石鏃の帰属文化については確かな結論を得ていないようだ．本調査においても，石鏃の存在は多くの問題を提示している．

なお，この島では稀な，青緑色のチャート製石鏃1点が出土している．先端部を欠損するが，平基式の正三角形状にちかい．

土器片は，器形の復原が難しい細小片が多い．なかに，弥生式土器以外の存在も推測されるが，それと判別できるものは未だ確認していない．出土分布は，平坦部よりも，むしろ斜面部にかかったところで多いようで，主として第Ⅱ層からである．第Ⅲ層出土のものも，大体同層の中ほどに位置する．それらのうち，器形や文様が観察できうる弥生式土器（第30図）では，弥生時代の中期後半から後期前半頃の時期が考えられる．



0　5cm

第30図　彌生式土器

おわりに

西方遺跡の中心をなすA地区の調査は，まだ未掘の部分が多く，肝心の平坦部も発掘途中にある．遺跡の内容を正しく理解するには，今後の調査を待たなければならない．

それでも，これまでの調査によって旧石器文化に関するもののほか石鏃，弥生式土器など予想をはるかに上回る遺物を採集しており，今後もさらに多数の遺物が加算されるであろう．

ただ，調査にあたって残念なのは，それらが時代を特定できる包含層に伴うものでないということである．しかし，この点については，平坦部の調査が進行する今後において期待できる余地が残っている．

旧石器文化に関する遺物は，既に瀬戸内の各遺跡において多く知られているが，本調査出土例は各種各様のものが見られ，その分類や編年研究に貴重な資料を提供するものである．

ここで言う旧石器文化とは，旧石器時代の後期，約1万年以前に遡る時代の所産であり，土器文化に先行するという文化的要素から先土器文化（時代）の称も用いられる．そして瀬戸内地域における先土器時代の文化編年によれば，おおまかに敲打器（握槌様石器）→刃器（刃器状剝片，縦長刃器）→ナイフ形石器（国府型，宮田山型）→細石器（細石刃，細石核）→有舌尖頭器（石鏃，土器併存）の順序を辿るとされている．

本遺跡で特徴的なナイフ形石器は，出土状況において層位的な判別ができないけれども形態的には国府型，宮田山型，井島型などの変化が認められる．従来，中・四国ではナイフ形石器について国府型→宮田山型→井島型とする編年が妥当性をもつように考えられている．これによると，本遺跡出土のナイフ形石器は，国府型から井島型に至る時間的な差を表わしている．加えて有舌尖頭器の出土を考えると西方遺跡の示す先土器文化は，ナイフ形石器併存期にかけての長期間にわたる文化の展開として推測される．しかし，細石刃，細石核を主体とする石器群や有舌尖頭器を伴う初期土器文化を明らかにする資料を確認していないので，本遺跡がどのような時間的経過を辿るのかははっきりしない．

石鏃については，ほとんどが凹基或は平基の無茎式に属するものだが，多様な形態を呈するうえに，明らかな伴出遺物も示すことができない．このため，本調査の範囲内だけでは各々について確かな時代を比定することが難しいが，これまで先土器時代の遺跡として著名である鷲羽山，宮田山（岡山県）や井島，櫃石島（香川県）遺跡などで採集されている石鏃と同一形態に属するものがある．また，瀬戸内の縄文～弥生時代の遺跡において認められる形態に類似するものも見受けられる．はたしてそれが細石器文化に続く初期土器文化の所産とされるものか，或は，縄文～弥生時代におけるものかなど，石鏃の帰属について，他遺跡出土例をできるだけ収集し，より慎重に比較検討して論じたい．

ところで，本遺跡のようにナイフ形石器を主体とする先土器時代の遺跡は，近辺の島嶼部や内海に面した岬の丘陵地などに数多く存在しており，総じて中部瀬戸内の備讃海峡一帯はナイフ形石器の主要な分布地域を形成する．石材のサヌカイト供給地は，国分寺町国分台や坂出市城山，金山である．京都大学工学部の「蛍光X線法によるサヌカイト石器の原産地比定」では，昭和51年度与島予備調査出土品が金山産であるとの分析所見を得ているが，長期間にわたる文化の継続が推測される本遺跡の出土品に於いては，各原産地からの混入や時期による原産地の移動が認められるかもしれない．石材の原産地比定には大きな興味がもたれる．

こうしたサヌカイト製石器を出土する先土器時代の遺跡分布は，当時この地域が狩猟を中心とする最適な生活環境にあたったことを物語っている．その時代は，約1万年以前に遡る洪積世初頭に

かけてである．その頃の海面低下は30～40m程であったと言われる．今，海図を広げてこの地域の等深線を辿ってみると，部分的に水深30mをこえるところも見当るが，島嶼部周辺では20～30mを測るところが多く，10m前後のところさえある．即ち，今日に至る海底の地形変化を別にして考えると，30m程の海面下降で備讃瀬戸の島々は陸続きとなり，その間には入り込んだ河谷や湖沼が存在して，瀬戸内でも最も好適な猟場の地形環境をなしていたに違いない．しかも，石器原材のサヌカイトは，原産地が近距離にあって事欠かない．与島近辺に運んだ原石を懸命に加工して狩猟に精出した当時の人々の足跡が数多く今日に残っているのは至極当然のことであろう．

これまで述べてきたように，調査の中間的な段階にある現時点で，すでに遺跡の提示するいくつかの問題点に直面している．今後の調査で，どれだけそれらについて確かな答を引き出すことができるだろうか．発掘の一場面一場面に最大の注意を払わなければならないし，得られた資料の１つ１つにも充分な観察を加えなければならない．勿論，そうした詳細な観察に向ける努力もさることながら，遺跡を如何に巨視的に考察していくかも欠かせないことである．本調査に関する課題は多いが，それだけに期待するところも多い．

付　　表

凡　　例

＊本表はAc列の主たる出土遺物一覧表である.

＊備考欄の記号は次のことを示す.

◎　完　　形　　品
○　先　端　部　欠　損
□　先端部・基部欠損
△　基　　部　　欠　　損
①　半　　折

ナイフ形石器一覧表　　付表1

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考	番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
1	4.74	1.78	0.72	5.9	Ac0	○	46	3.42	1.71	0.52	3.6	Ac0	△
2	3.63	1.35	0.57	3.0	〃	○	47	2.42	2.31	0.51	2.9	〃	○
3	3.48	2.07	0.84	6.3	〃	○	48	2.64	1.32	0.41	1.3	Ac1	◎
4	6.30	2.13	0.98	13.8	〃	◎	49	1.40	1.19	0.49	0.9	〃	△
5	3.30	1.50	0.78	5.9	〃	○	50	4.34	1.51	0.96	6.5	〃	○
6	2.35	1.26	0.39	0.9	〃	△	51	5.51	1.48	0.96	8.9	〃	◎
7	4.74	1.87	1.02	6.8	〃	○	52	3.26	1.42	0.50	2.2	〃	△
8	1.50	1.16	0.50	0.9	〃	○	53	4.66	1.51	0.68	4.3	〃	◎
9	1.69	1.76	0.41	1.4	〃	○	54	2.28	1.58	0.52	1.7	〃	○
10	2.85	1.16	0.67	2.3	〃	△	55	2.09	1.48	0.55	2.2	〃	□
11	3.65	1.51	0.68	3.3	〃	△	56	4.96	1.24	0.70	4.8	〃	◎
12	2.75	2.03	0.45	1.9	〃	△	57	4.15	1.82	0.89	6.0	〃	△
13	3.70	1.60	0.66	3.5	〃	△	58	3.94	1.49	0.70	3.5	〃	◎
14	2.65	1.53	0.50	2.4	〃	△	59	4.51	1.55	0.89	7.0	〃	◎
15	5.00	1.71	1.10	7.0	〃	○	60	2.87	1.29	0.98	2.2	〃	△
16	4.04	1.60	0.70	3.5	〃	△	61	2.07	0.98	0.66	1.1	〃	△
17	2.66	1.22	0.49	1.5	〃	○	62	6.79	2.14	1.15	14.9	〃	◎
18	1.72	1.62	0.60	1.5	〃	○	63	9.12	1.41	0.55	1.1	〃	○
19	2.80	1.22	0.76	2.8	〃	△	64	3.14	1.72	0.53	3.1	〃	◎
20	3.84	1.32	0.59	2.7	〃	◎	65	2.29	1.31	0.74	2.3	〃	□
21	1.59	1.58	0.47	1.3	〃	○	66	4.24	1.57	1.62	3.6	〃	◎
22	2.00	1.10	0.42	0.7	〃	△	67	1.75	1.77	0.68	1.8	〃	□
23	2.15	2.02	0.47	2.6	〃	□	68	3.06	1.58	0.64	2.3	〃	◎
24	4.74	2.35	0.92	11.2	〃	○	69	3.09	1.40	0.45	2.3	〃	○
25	2.58	1.94	0.67	3.3	〃	○	70	2.21	1.81	0.63	3.2	〃	○
26	3.10	1.77	0.66	4.5	〃	○	71	2.12	1.30	0.56	1.2	〃	△
27	3.66	1.76	0.84	4.7	〃	△	72	3.08	1.37	0.50	2.0	〃	○
28	5.06	2.19	1.40	10.8	〃	△	73	4.19	2.47	0.99	12.0	〃	□
29	4.47	1.66	0.68	4.3	〃	◎	74	2.55	1.53	0.80	2.4	〃	△
30	2.38	1.55	0.81	2.3	〃	○	75	3.97	2.27	1.06	10.9	〃	□
31	4.36	1.60	0.46	4.3	〃	◎	76	3.87	1.79	0.96	5.6	〃	△
32	3.02	1.02	0.46	1.3	〃	△	77	4.81	2.35	1.09	14.9	〃	□
33	4.47	1.69	0.98	6.0	〃	○	78	4.03	1.26	0.72	3.7	〃	◎
34	3.69	2.25	0.88	8.2	〃	○	79	5.21	1.51	0.86	6.0	〃	◎
35	2.27	1.40	0.48	1.9	〃	○	80	3.24	2.16	0.70	4.2	〃	□
36	4.39	1.38	0.58	3.4	〃	◎	81	3.73	2.09	0.90	7.1	〃	□
37	1.92	0.92	0.42	0.7	〃	△	82	3.39	1.48	0.76	3.2	〃	◎
38	2.38	1.56	0.47	2.0	〃	○	83	3.50	1.51	0.60	3.9	〃	□
39	1.59	0.81	0.31	0.5	〃	△	84	3.29	1.45	0.93	3.4	〃	◎
40	1.55	1.31	0.37	0.6	〃	△	85	2.99	2.07	0.71	2.6	〃	△
41	2.18	1.92	0.70	2.3	〃	○	86	3.22	1.54	0.53	2.2	〃	△
42	4.07	2.20	0.81	6.5	〃	△	87	6.03	1.71	0.46	5.6	〃	◎
43	2.20	1.07	0.50	0.7	〃	△	88	3.92	1.46	0.82	3.8	〃	△
44	5.20	3.26	0.86	20.6	〃	□	89	2.92	1.51	1.07	4.6	〃	△
45	3.84	2.48	0.90	8.1	〃	○	90	4.45	1.81	0.81	6.4	〃	△

ナイフ形石器一覧表

付表2

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
91	3.89	1.11	0.56	2.5	Ac1	◎
92	1.39	1.04	0.60	0.8	〃	□
93	3.97	2.56	0.74	7.5	〃	□
94	1.33	3.86	0.59	2.6	Ac2	□
95	1.70	1.87	0.44	1.3	〃	○
96	2.96	1.22	0.59	2.0	〃	◎
97	1.76	1.65	0.65	2.4	〃	□
98	3.14	1.52	0.77	3.4	〃	○
99	3.31	1.65	0.87	5.5	〃	○
100	4.07	2.44	0.67	6.2	〃	○
101	4.08	1.37	0.85	2.8	〃	◎
102	1.86	2.70	0.50	2.3	〃	○
103	6.02	2.03	0.77	7.1	〃	◎
104	3.74	2.18	0.76	7.3	〃	□
105	5.29	1.88	0.87	7.8	〃	◎
106	5.36	1.54	0.85	7.4	〃	□
107	5.52	1.46	0.84	6.0	〃	◎
108	2.49	1.26	0.64	2.2	〃	○
109	4.34	2.11	1.07	10.8	〃	○
110	5.34	1.99	1.10	13.4	〃	□
111	1.87	1.17	0.73	1.8	〃	○
112	3.97	1.55	0.98	5.6	〃	◎
113	3.31	1.23	0.81	2.1	〃	△
114	3.80	1.54	0.96	5.4	〃	△
115	4.78	1.56	0.70	4.7	〃	◎
116	3.97	1.90	0.63	5.5	〃	○
117	4.30	1.53	0.49	3.0	〃	◎
118	3.35	1.26	0.84	2.6	〃	◎
119	3.65	2.66	1.15	17.3	〃	○
120	3.83	1.34	0.86	4.9	〃	○
121	3.89	1.93	0.84	7.6	〃	○
122	2.35	1.17	0.59	1.8	〃	○
123	4.82	1.70	0.64	4.8	〃	◎
124	2.79	1.57	0.65	1.9	〃	△
125	5.40	2.00	1.41	12.3	〃	◎
126	4.59	1.88	0.93	6.0	〃	◎
127	3.29	1.80	0.51	2.2	〃	△
128	2.47	1.64	0.37	1.4	〃	○
129	3.22	1.38	0.56	2.3	〃	△
130	4.44	2.01	0.52	5.4	〃	△
131	5.50	2.05	0.90	9.3	〃	○
132	5.44	1.17	1.12	6.7	〃	◎
133	6.03	2.30	0.98	12.6	〃	◎
134	4.36	1.49	0.60	4.0	〃	◎
135	3.60	1.65	1.07	5.2	〃	◎
136	2.40	1.10	0.42	0.9	Ac2	△
137	5.00	1.67	1.00	6.9	〃	△
138	5.63	2.54	1.06	16.9	〃	○
139	4.06	1.00	1.06	4.5	〃	○
140	6.04	2.66	1.12	14.5	〃	◎
141	3.26	2.80	0.78	7.5	〃	○
142	1.92	1.38	0.68	1.9	〃	□
143	3.20	1.47	0.58	3.3	〃	○
144	2.18	1.60	0.36	1.0	〃	△
145	3.00	2.10	0.60	4.8	〃	□
146	4.66	2.06	0.85	7.7	〃	△
147	4.65	1.67	0.73	5.6	〃	◎
148	4.50	1.84	1.10	9.0	〃	□
149	3.70	2.40	1.00	7.1	〃	○
150	3.82	1.53	0.88	4.3	〃	△
151	3.74	1.13	0.80	3.1	〃	△
152	2.38	1.45	0.51	1.7	〃	△
153	4.01	1.50	0.64	3.0	〃	◎
154	2.30	1.44	0.90	2.5	〃	◎
155	7.10	2.28	0.78	14.8	〃	◎
156	4.37	1.46	1.04	4.7	〃	△
157	3.56	1.52	0.67	3.0	〃	◎
158	3.84	1.62	0.60	4.3	〃	△
159	4.10	1.59	0.42	5.8	〃	◎
160	2.07	1.00	0.53	0.7	Ac3	△
161	6.21	2.16	0.85	12.0	〃	△
162	2.32	2.34	0.96	6.0	〃	□
163	4.17	1.26	0.47	2.6	〃	◎
164	2.02	0.93	0.35	0.8	〃	△
165	5.27	1.44	0.97	6.2	〃	△
166	8.41	1.93	1.37	19.9	〃	◎
167	3.58	1.46	0.54	2.5	〃	◎
168	3.52	1.19	0.70	2.4	〃	◎
169	2.34	1.66	0.65	2.5	〃	○
170	4.33	1.98	0.77	6.6	〃	△
171	5.90	1.82	1.03	8.6	〃	◎
172	4.19	1.58	0.57	3.5	〃	◎
173	4.68	1.55	0.94	5.9	〃	◎
174	6.75	3.66	1.34	32.9	〃	○
175	5.57	2.07	1.08	15.5	〃	□
176	2.13	1.26	0.60	1.1	〃	△
177	1.79	1.49	0.59	1.1	〃	△
178	5.19	1.71	0.76	5.8	〃	◎
179	4.32	1.87	1.39	12.6	〃	○
180	3.28	1.22	0.52	2.2	〃	◎

ナイフ形石器一覧表　　付表3

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考	番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
181	5.05	3.61	1.62	24.8	Ac3	○	226	4.22	1.86	0.65	6.4	Ac4	○
182	5.88	2.52	1.16	16.8	〃	□	227	2.65	1.79	0.72	2.7	〃	○
183	2.38	1.19	0.79	2.3	〃	□	228	3.13	1.76	1.34	5.8	〃	△
184	3.98	1.49	0.90	3.4	〃	◎	229	3.02	1.69	0.84	3.9	〃	△
185	5.47	1.19	1.02	7.2	〃	○	230	2.20	0.76	0.75	2.3	〃	△
186	3.53	1.74	0.95	7.2	〃	○	231	4.74	1.82	1.03	8.0	〃	◎
187	3.54	1.12	0.72	2.2	〃	△	232	3.84	1.47	0.87	4.8	〃	△
188	5.50	1.64	1.24	10.4	〃	△	233	3.40	1.33	0.44	1.8	〃	△
189	1.31	1.50	0.51	1.2	〃	□	234	4.26	2.08	0.80	5.1	〃	◎
190	4.25	1.53	0.63	3.4	〃	◎	235	4.63	1.86	0.57	5.9	〃	◎
191	3.99	2.31	0.74	8.7	〃	○	236	1.92	1.44	0.79	1.9	〃	□
192	3.65	1.85	0.79	6.3	〃	○	237	4.17	1.85	0.79	7.6	〃	○
193	5.62	1.42	0.97	5.8	〃	◎	238	4.32	2.33	1.11	8.0	〃	○
194	5.25	1.50	0.71	5.5	〃	△	239	3.35	1.66	0.81	5.7	〃	○
195	5.91	1.46	1.23	8.4	〃	◎	240	4.97	1.67	0.92	6.4	〃	◎
196	3.97	1.78	0.75	5.1	〃	○	241	1.36	3.16	0.58	2.1	〃	◎
197	4.19	1.83	0.76	5.6	〃	△	242	1.73	4.00	0.52	3.4	〃	◎
198	3.28	1.29	0.52	2.2	〃	◎	243	1.90	6.67	1.24	12.3	〃	◎
199	5.06	1.73	0.74	5.8	〃	◎	244	4.22	1.81	1.01	7.6	〃	○
200	3.40	1.53	0.65	2.9	〃	○	245	3.86	1.20	0.53	2.6	〃	△
201	2.80	1.63	0.72	3.1	Ac4	○	246	5.84	1.86	0.80	8.9	〃	◎
202	3.12	1.59	0.55	3.3	〃	□	247	2.35	1.96	0.90	4.3	Ac5	□
203	4.31	1.88	0.71	5.6	〃	○	248	5.13	1.59	0.55	5.0	〃	◎
204	2.08	1.87	0.63	2.5	〃	□	249	2.58	1.67	0.86	3.9	〃	□
205	5.92	1.34	0.83	6.1	〃	◎	250	5.43	1.88	1.06	9.7	〃	△
206	1.36	0.70	0.34	0.2	〃	△	251	1.88	1.94	0.69	3.3	〃	□
207	2.52	1.71	0.55	2.6	〃	○	252	3.97	1.51	0.58	3.2	〃	△
208	2.38	1.18	0.44	1.4	〃	○	253	4.37	1.72	0.74	4.9	〃	◎
209	2.94	1.51	0.41	2.1	〃	○	254	3.83	1.71	0.39	3.3	〃	○
210	4.29	1.24	0.72	4.0	〃	△	255	2.73	1.35	0.84	4.1	〃	□
211	4.76	1.69	1.22	11.2	〃	□	256	2.90	1.78	0.82	2.8	〃	△
212	3.86	1.68	0.60	3.6	〃	○	257	4.74	1.37	0.83	5.1	〃	◎
213	1.26	1.91	0.58	1.5	〃	△	258	2.31	1.53	0.78	2.1	〃	△
214	2.85	0.85	0.42	2.1	〃	□	259	3.05	1.99	0.40	2.6	〃	□
215	4.74	1.46	0.93	6.2	〃	◎	260	2.46	1.52	0.66	3.1	〃	□
216	4.43	1.46	0.85	4.4	〃	◎	261	4.92	1.61	0.80	6.5	〃	◎
217	4.42	1.67	0.65	3.5	〃	◎	262	3.90	1.55	0.71	4.1	〃	◎
218	5.64	2.04	0.77	8.8	〃	◎	263	4.15	1.97	1.08	8.4	〃	○
219	3.31	1.38	0.80	3.0	〃	◎	264	4.77	1.83	0.67	7.5	〃	□
220	3.43	1.51	0.42	2.0	〃	○	265	2.19	1.54	0.34	1.1	〃	△
221	4.13	1.42	0.52	3.7	〃	◎	266	3.84	1.42	0.60	3.3	〃	◎
222	2.77	2.31	0.63	4.9	〃	□	267	1.76	2.54	0.78	3.0	〃	○
223	3.98	1.92	1.08	9.0	〃	○	268	4.93	1.49	0.98	7.4	〃	□
224	3.46	1.09	0.63	3.0	〃	△	269	3.86	1.92	1.30	11.1	〃	○
225	2.28	1.31	0.61	1.8	〃	○	270	4.32	1.80	0.78	6.8	〃	△

ナイフ形石器一覧表　　付表4

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考	番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
271	2.84	2.24	1.09	6.7	Ac5	□	316	3.86	2.26	0.81	7.5	Ac6	□
272	3.69	1.87	0.77	3.9	〃	◎	317	4.11	0.98	0.82	2.9	Ac7	◎
273	3.27	2.28	0.64	5.5	〃	□	318	2.14	1.37	0.44	1.5	〃	○
274	2.24	1.59	0.66	2.0	〃	○	319	5.42	1.82	0.65	6.5	〃	◎
275	3.31	1.77	0.53	3.5	〃	○	320	3.74	1.42	0.70	3.6	〃	◎
276	3.65	1.48	0.71	2.2	〃	△	321	4.27	1.61	0.49	4.0	〃	○
277	2.32	1.62	0.76	2.9	〃	○	322	3.56	1.70	0.73	4.8	〃	○
278	4.14	1.54	0.97	3.9	〃	△	323	3.51	1.58	0.54	3.6	〃	△
279	4.06	1.88	0.97	7.4	〃	□	324	2.94	1.17	0.75	2.0	〃	△
280	2.12	0.98	0.56	1.3	〃	△	325	2.44	1.83	0.69	3.3	〃	○
281	4.09	1.34	0.87	3.9	〃	◎	326	3.42	1.64	0.58	3.3	〃	○
282	2.72	1.36	0.40	1.4	〃	○	327	3.06	1.85	0.67	4.0	〃	□
283	4.49	1.86	0.92	7.9	Ac6	△	328	4.23	1.68	0.51	4.1	〃	◎
284	2.43	1.54	0.60	1.7	〃	○	329	2.76	0.91	0.70	1.6	〃	△
285	4.09	1.76	0.61	4.5	〃	△	330	5.74	1.65	1.16	11.7	〃	◎
286	2.00	1.73	0.65	1.9	〃	△	331	5.53	1.64	0.77	5.6	〃	◎
287	4.60	1.90	0.57	4.3	〃	◎	332	4.52	1.77	0.84	5.0	〃	◎
288	4.14	1.87	0.93	7.8	〃	△	333	4.05	2.31	0.77	8.6	〃	△
289	4.31	2.54	0.90	12.4	〃	○	334	2.83	1.65	0.67	3.0	〃	△
290	1.78	1.55	0.52	1.0	〃	△	335	6.33	2.17	1.12	17.0	〃	◎
291	2.23	1.50	0.90	3.0	〃	○	336	2.24	1.64	0.45	1.6	〃	○
292	3.83	1.70	0.70	5.0	〃	○	337	3.42	1.86	1.05	6.4	〃	□
293	4.07	1.61	0.70	4.0	〃	○	338	3.85	1.97	0.90	4.3	〃	△
294	3.05	1.43	0.57	2.4	〃	○	339	2.87	1.42	0.46	1.9	〃	◎
295	2.16	1.50	0.84	3.4	〃	□	340	2.78	1.24	0.30	1.6	Ac8	△
296	2.10	1.86	0.58	2.5	〃	○	341	3.48	1.57	0.94	3.6	〃	◎
297	3.91	1.94	0.64	5.4	〃	○	342	3.65	2.12	1.24	8.6	〃	○
298	3.30	1.73	0.67	2.9	〃	◎	343	2.24	1.63	0.36	1.5	〃	○
299	4.24	2.00	0.84	6.5	〃	△	344	3.77	1.55	0.94	4.9	〃	△
300	2.20	1.72	0.96	5.6	〃	□	345	4.08	1.65	0.53	3.1	〃	◎
301	3.30	1.59	0.60	3.3	〃	○	346	3.35	1.53	0.50	2.0	〃	◎
302	4.11	1.47	0.56	3.1	〃	◎	347	3.75	2.01	0.99	6.1	〃	△
303	2.29	1.48	0.74	2.5	〃	△	348	2.95	1.79	0.77	4.1	〃	□
304	7.16	2.50	0.68	14.1	〃	◎	349	3.60	1.64	0.67	2.6	〃	◎
305	2.35	1.30	0.42	1.2	〃	◎	350	5.15	2.98	1.22	23.4	〃	○
306	1.37	1.60	0.47	1.0	〃	○	351	3.86	1.50	0.46	2.7	Ac9	◎
307	1.66	1.43	0.42	0.9	〃	□	352	2.94	1.72	0.44	2.6	〃	△
308	3.32	1.99	1.25	9.3	〃	□	353	3.92	1.91	0.77	7.7	〃	□
309	3.40	1.64	0.37	2.1	〃	◎	354	3.81	1.13	0.38	1.9	〃	◎
310	2.21	2.00	0.80	3.8	〃	○	355	3.92	1.71	0.84	4.7	〃	○
311	2.28	1.70	1.06	4.2	〃	○	356	3.13	1.63	1.04	6.6	〃	
312	5.12	1.70	1.30	12.3	〃	△	357	2.83	2.33	1.04	6.6	〃	□
313	4.78	1.62	0.58	4.6	〃	◎	358	2.69	1.66	0.57	3.0	〃	□
314	4.13	1.80	0.72	5.3	〃	○	359	3.76	1.26	0.70	3.4	〃	△
315	4.38	2.21	0.68	4.8	〃	◎	360	4.61	1.41	0.63	3.9	〃	◎

付表5

ナイフ形石器一覧表

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
361	4.25	1.98	0.57	5.3	Ac9	◎
362	2.44	1.55	0.84	2.0	Ac10	△
363	4.36	1.42	0.78	5.4	〃	◎
364	3.93	1.55	0.52	3.4	〃	○
365	4.44	2.47	0.88	10.1	〃	△
366	6.18	1.63	0.99	9.0	〃	◎
367	4.32	2.53	1.18	14.1	〃	□

三稜形尖頭器一覧表

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
1	3.09	1.50	0.87	4.4	Ac1	○
2	2.50	0.91	0.91	1.9	〃	△
3	2.60	1.54	1.14	5.2	〃	□
4	5.34	1.54	0.53	2.2	〃	◎
5	3.37	2.59	1.70	13.2	Ac2	○
6	5.73	1.58	1.20	12.8	Ac3	○
7	4.95	2.02	1.31	13.4	Ac5	△
8	4.88	1.38	0.11	7.0	Ac8	△
9	3.13	1.63	1.04	6.6	Ac9	□

叩き石一覧表

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
1	5.75	2.29	1.47	31.5	Ac0	△緑泥片岩
2	6.71	2.85	1.37	38.7	〃	◎ 〃
3	5.83	2.38	1.54	33.2	〃	□ 〃
4	4.13	1.37	1.33	10.3	Ac1	□ 〃
5	4.91	1.67	1.69	26.3	〃	△泥　岩
6	4.96	1.70	1.45	17.5	Ac3	△緑泥片岩
7	4.84	3.06	2.38	46.2	Ac4	⦶砂　岩
8	8.67	3.18	0.94	39.3	Ac5	⦶緑泥片岩
9	5.58	1.47	1.13	12.3	Ac7	⦶砂　岩

石鏃一覧表

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
1	1.80	1.43	0.31	0.9	Ac0	○
2	2.36	1.94	0.36	1.7	〃	△
3	2.75	1.65	0.44	1.7	〃	△
4	1.67	1.38	0.28	0.6	〃	◎
5	3.37	1.56	0.45	1.8	〃	◎
6	2.60	1.12	0.49	1.1	Ac1	△
7	3.00	1.73	0.28	1.7	〃	△
8	2.23	0.77	0.38	0.9	〃	⦶
9	1.65	1.50	0.35	0.6	〃	△
10	1.74	1.50	0.29	0.6	〃	◎
11	1.12	1.33	0.26	0.5	〃	□
12	1.94	1.36	0.35	0.7	〃	◎
13	1.41	1.20	0.29	0.4	〃	◎
14	2.11	1.76	0.34	1.7	〃	○
15	1.95	2.32	0.34	1.9	〃	○
16	1.12	1.38	0.27	0.4	〃	△
17	2.85	2.04	0.56	3.5	〃	○
18	1.97	2.06	0.35	1.3	〃	○
19	2.93	1.71	0.54	2.5	〃	◎
20	2.87	2.08	0.51	3.1	Ac2	△
21	0.99	0.80	0.34	0.1以下	〃	□
22	3.06	1.22	0.46	1.4	〃	◎
23	2.27	1.44	0.51	1.3	〃	○
24	2.56	1.42	0.34	0.9	〃	◎
25	1.20	1.60	0.30	0.6	〃	○
26	2.17	0.75	0.24	0.4	〃	⦶
27	2.64	1.80	0.62	2.4	〃	◎
28	2.56	1.42	0.34	0.9	〃	◎
29	2.05	1.25	0.32	0.7	Ac3	△
30	1.40	1.64	0.31	0.6	〃	□
31	2.57	1.17	0.33	1.1	〃	△
32	3.04	1.79	0.51	2.7	〃	○
33	2.07	1.19	0.32	0.9	〃	○
34	2.84	1.31	0.36	1.2	〃	◎
35	2.46	1.79	0.35	1.6	〃	△
36	2.81	1.48	0.59	2.1	〃	○
37	1.31	1.80	0.27	0.6	〃	○
38	2.62	1.13	0.33	1.1	〃	◎
39	2.56	1.28	0.45	1.3	〃	○
40	1.96	1.07	0.29	0.6	〃	□
41	1.78	1.31	0.26	0.5	〃	□
42	3.77	2.08	0.66	4.5	〃	△
43	1.54	1.23	0.24	0.4	〃	△
44	2.55	1.58	0.34	1.0	Ac4	◎
45	2.09	2.13	0.26	1.3	〃	□

石鏃一覧表

付表6

番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考	番号	大きさ(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	出土区画	備考
46	1.87	1.12	0.30	0.7	Ac4	□	69	2.39	1.74	0.30	1.3	Ac6	△
47	2.56	2.05	0.33	1.7	〃	○	70	1.51	1.93	0.37	0.9	〃	○
48	2.55	1.87	0.28	1.5	〃	△	71	2.21	1.84	0.32	1.7	〃	○
49	2.86	1.63	0.44	1.3	〃	◎	72	3.53	2.51	0.69	4.9	〃	△
50	2.26	1.46	0.26	0.7	〃	○	73	2.78	1.81	0.36	1.3	〃	△
51	2.56	1.81	0.48	1.5	〃	◎	74	1.95	1.29	0.23	0.5	〃	△
52	2.03	1.39	0.43	0.8	〃	◎	75	2.10	2.07	0.45	1.4	〃	◎
53	1.91	1.68	0.30	1.0	〃	△	76	1.71	0.86	0.30	0.4	〃	⦶
54	2.60	2.28	0.38	1.8	〃	◎	77	1.38	1.32	0.26	0.6	Ac7	○
55	2.40	1.31	0.31	0.8	〃	◎	78	3.94	1.79	0.51	3.9	〃	△
56	1.62	2.85	0.35	1.7	〃	△	79	2.53	1.35	0.36	1.0	〃	△
57	1.82	1.34	0.19	0.5	Ac5	△	80	2.59	1.94	0.42	1.4	〃	◎
58	1.41	1.69	0.29	0.6	〃	○	81	1.73	1.33	0.27	0.6	〃	△
59	1.79	1.87	0.29	0.8	〃	○	82	2.63	1.00	0.27	0.7	〃	△
60	3.24	1.79	0.40	1.8	〃	◎	83	2.56	1.83	0.44	2.0	〃	△
61	2.54	1.64	0.27	1.3	〃	△	84	2.35	1.52	0.40	1.4	Ac8	◎
62	2.32	1.92	0.33	1.3	〃	○	85	1.90	1.71	0.45	1.6	〃	○
63	1.61	1.46	0.28	0.5	Ac6	○	86	3.25	2.68	0.68	5.3	〃	○
64	2.48	1.11	0.26	0.7	〃	◎	87	2.49	1.87	0.62	2.0	Ac9	◎
65	3.07	1.96	0.51	2.9	〃	○	88	2.58	2.22	0.41	1.9	〃	△
66	1.29	1.71	0.38	0.9	〃	△	89	2.86	2.06	0.67	3.6	〃	△
67	2.59	1.57	0.56	2.0	〃	◎	90	2.20	1.70	0.28	1.0	Ac10	△
68	1.53	1.07	0.24	0.5	〃	○							

図　　版

西方遺跡調査現場と羽佐島（四国新聞社提供）

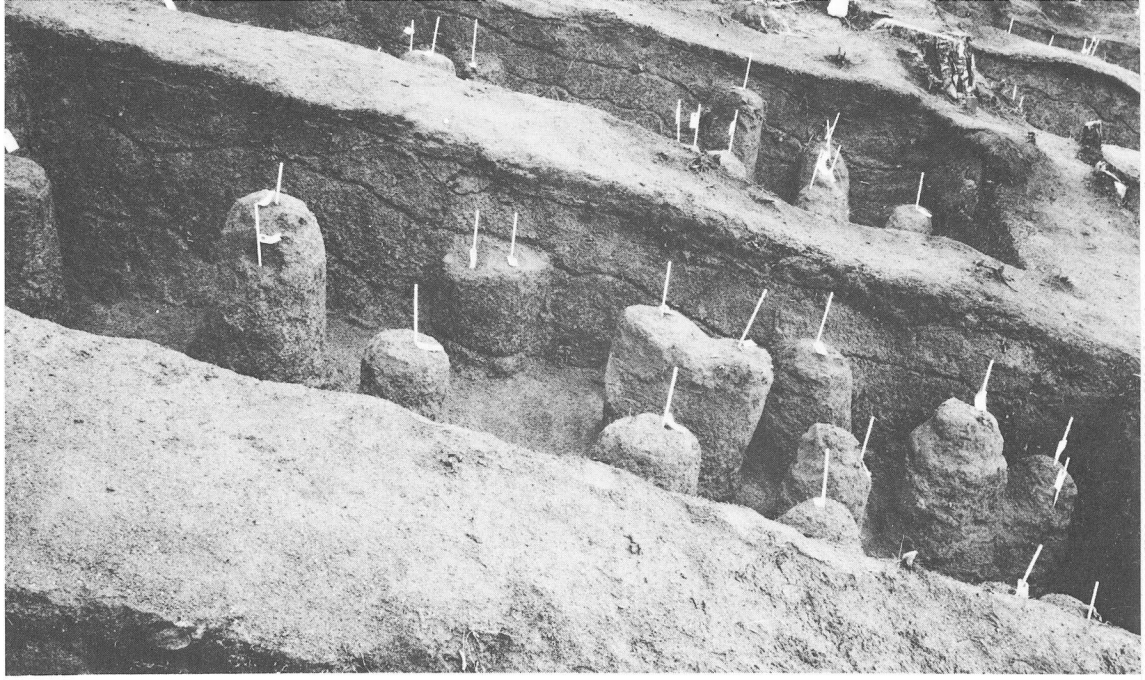
図版 1

(1) 西方遺跡遠景（東から）

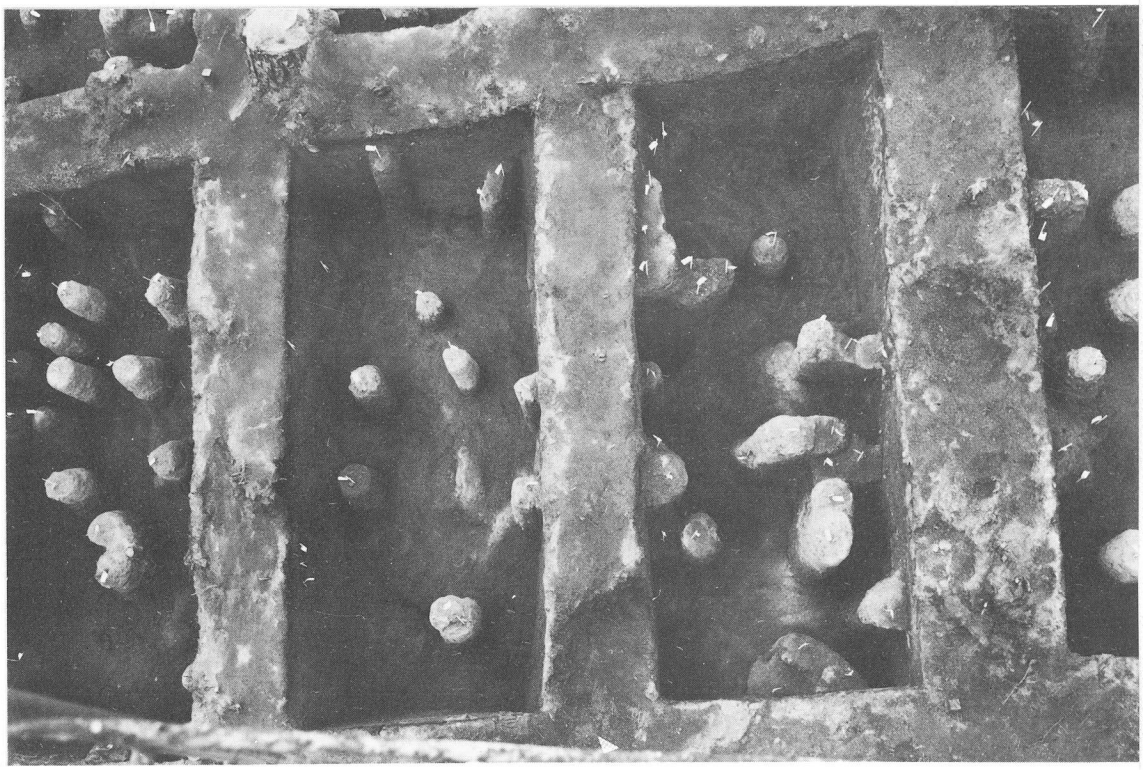
(2) B地区発掘作業

(3) B地区畦畔部除去作業

図版 2



(1) Bf1 遺物出土状態

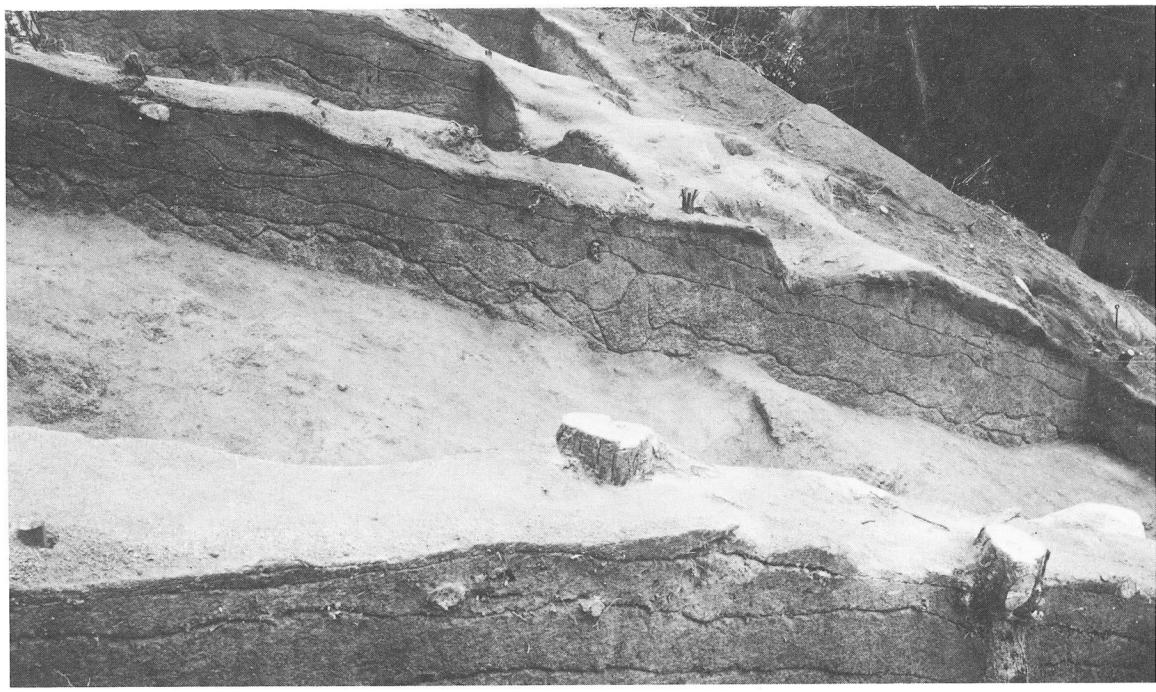


(2) Be 2 遺物出土状態

(3) Bb 1 遺物出土状態

図版 3

(1) Bf 1・2 北壁



(2) Bf 2・3 北壁

(3) B地区掘上げ全景

図版 4

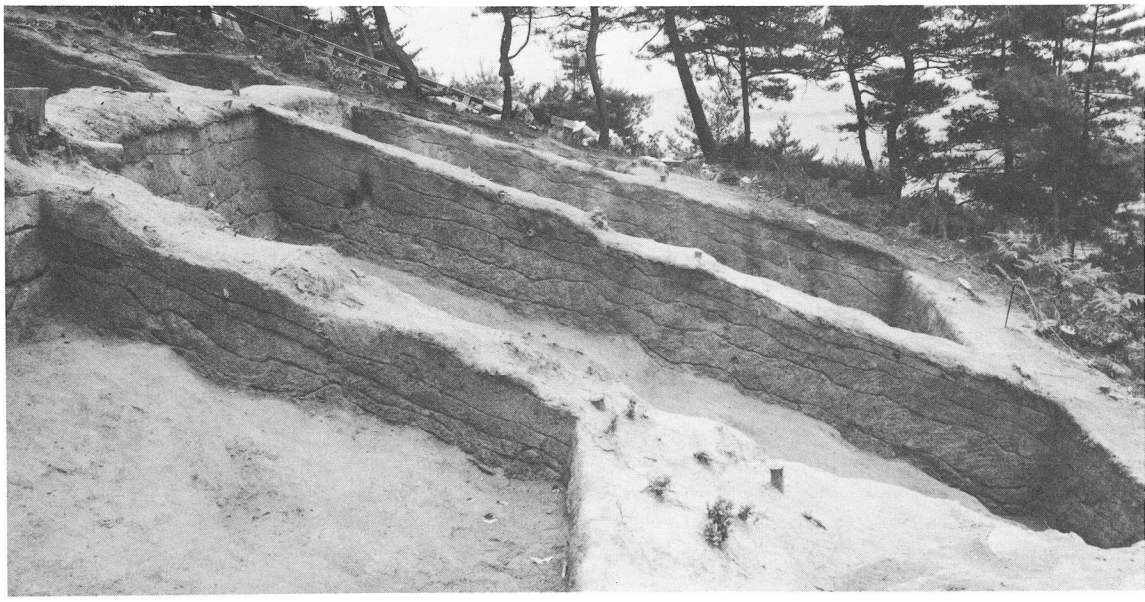
(1) A地区発掘作業

(2) Ab 6 遺物出土状態

(3) Ac 8 遺物出土状態

図版 5

(1) Ac 9 北壁

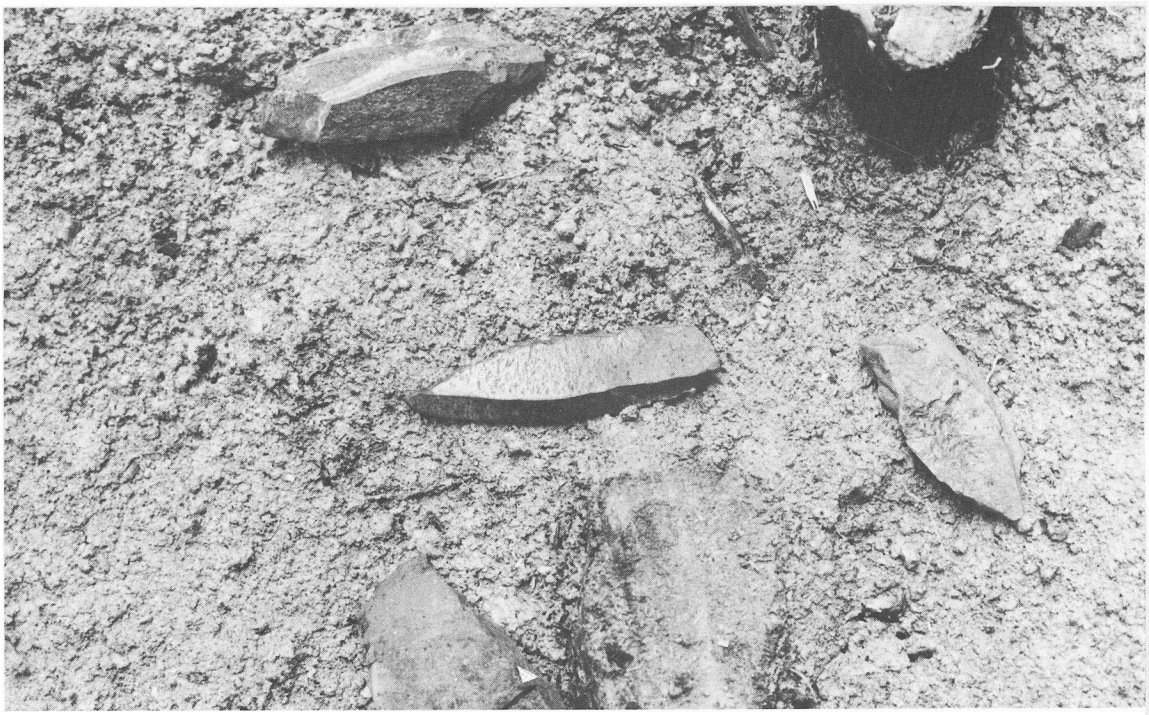


(2) Ac 9・10 東壁

(3) A地区南東斜面部
掘上げ全景

図版 6

(1) 礫　群



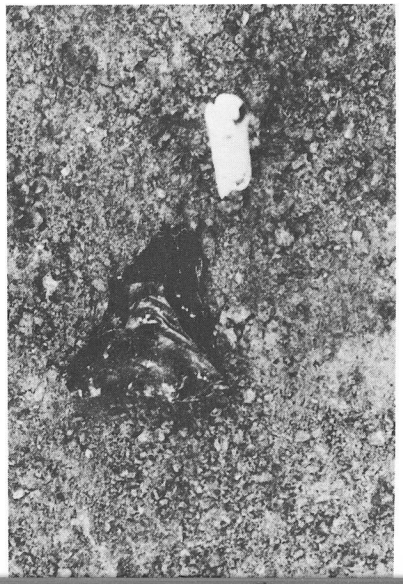
(2) 石器出土状態

(3) 石器出土状態

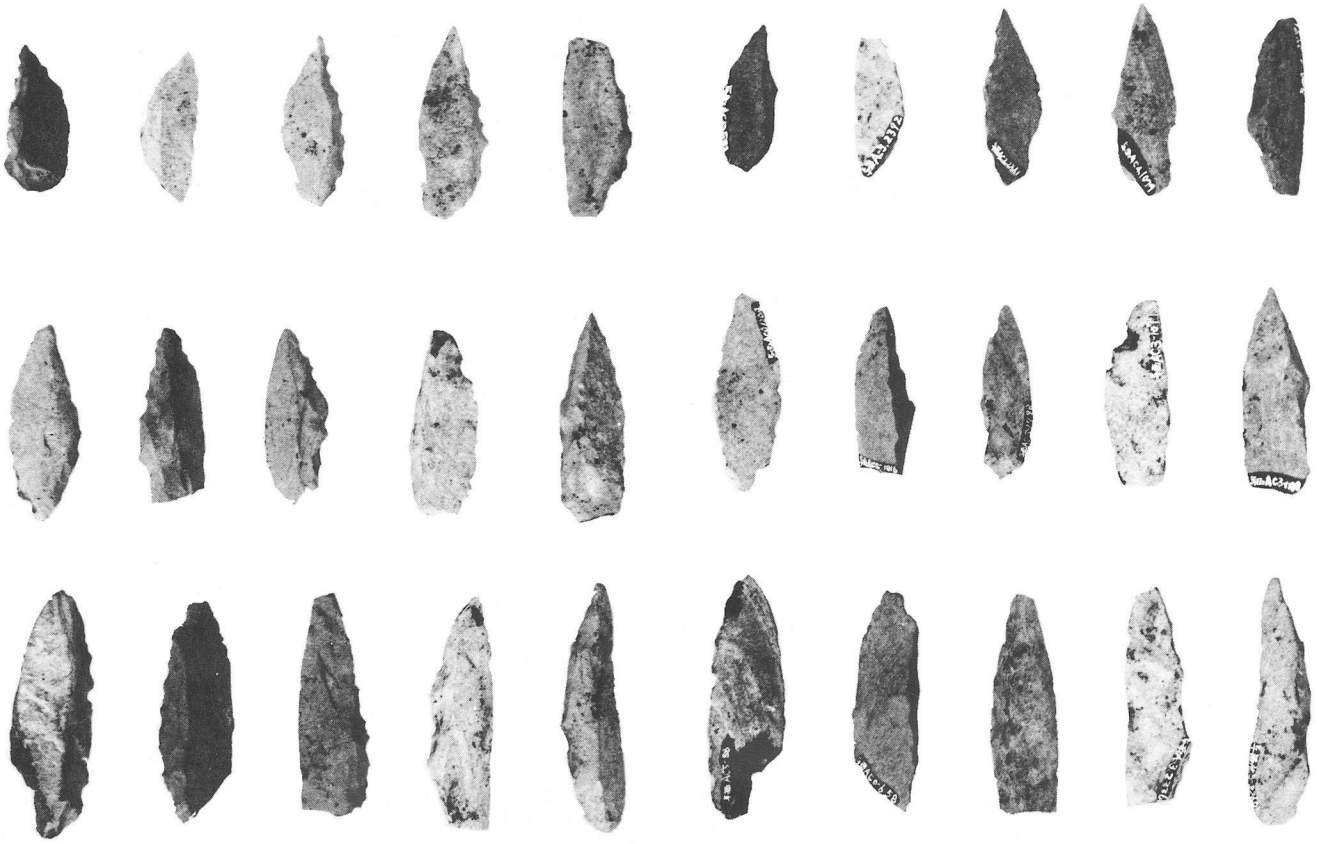
図版 7

(1) 石核出土状態

(2) ナイフ形石器出土状態

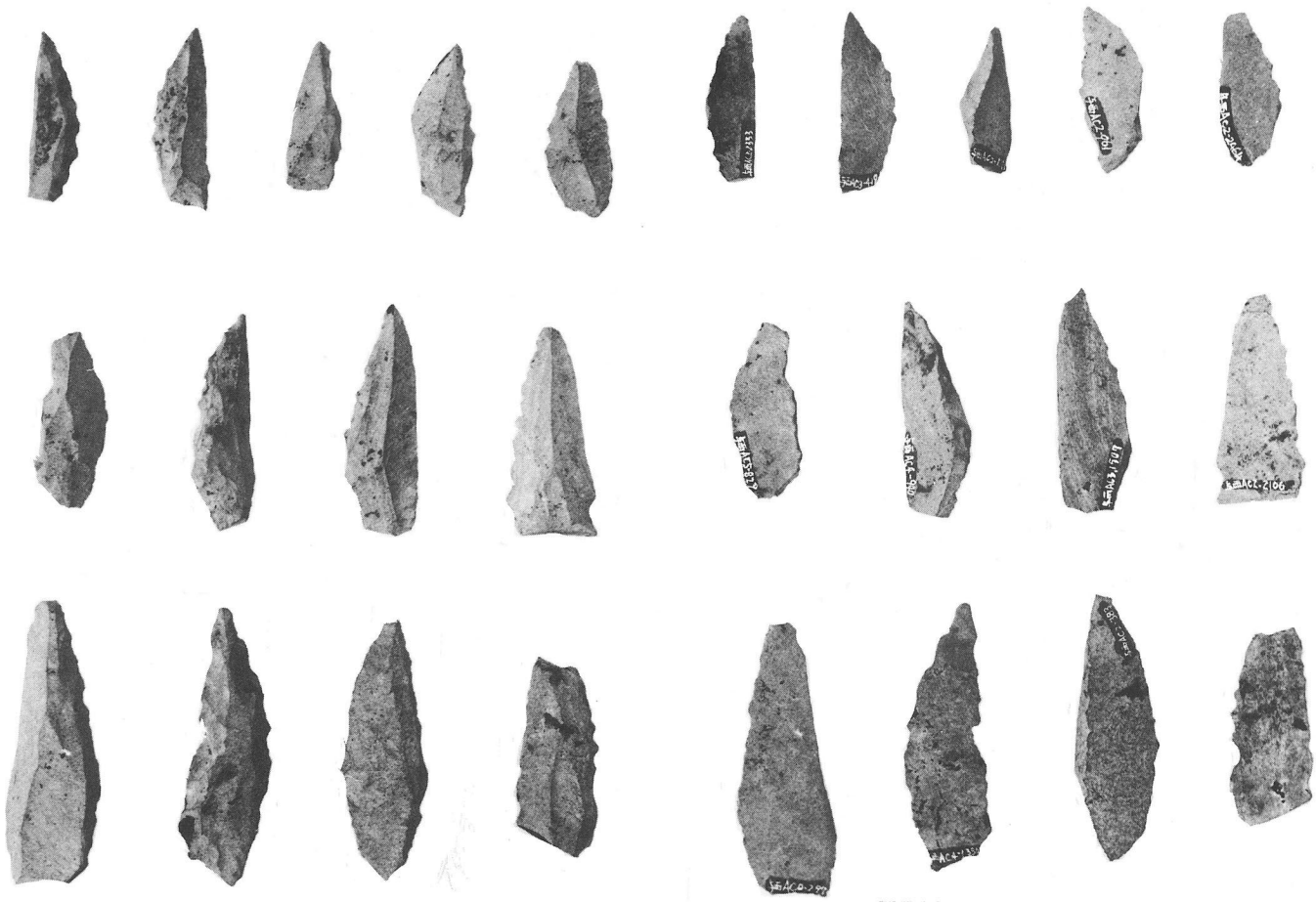


(3) 黒曜石・石鏃出土状態



(1) ナイフ形石器

0 5cm



(2) ナイフ形石器

0 5cm